

TASCAM

D01226601E

CC-222MKIV

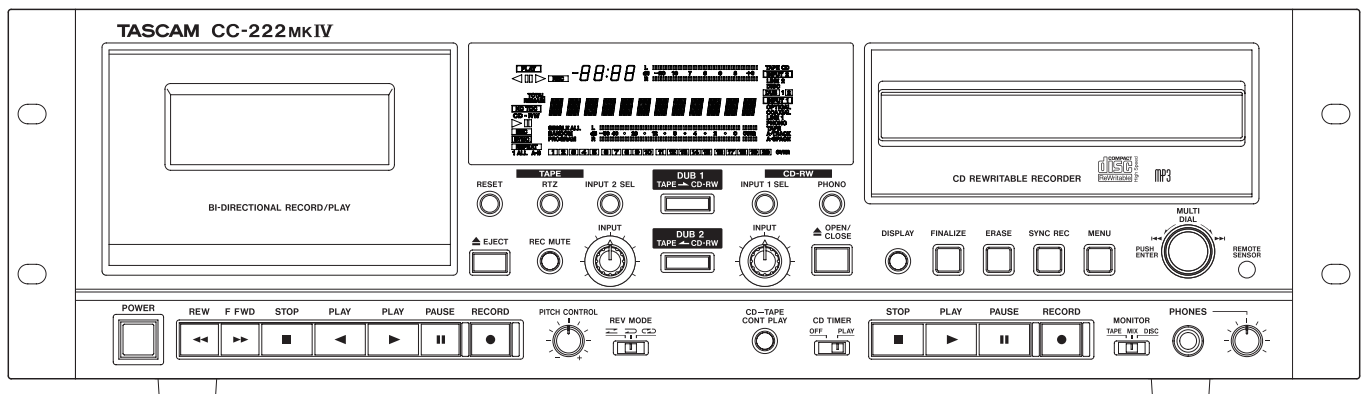
CD Recorder / Cassette Deck

Professional

取扱説明書






COMPACT
disc
ReWritable High Speed

MP3



安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。



	警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 電源プラグをコンセントから抜く	<p>万一、異常が起きたら 煙が出た、変なおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落とした、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）に修理をご依頼ください。</p>
 指示	<p>電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的（年1回くらい）に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 禁止	<p>電源コードを傷つけない 電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにし ない 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱 したりしない コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センター （裏表紙に記載）に交換をご依頼ください。</p> <p>付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。</p> <p>交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電 圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・ 感電の原因となります。</p> <p>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し（20cm以上） 離して設置する ラックなどに入れるときは、機器の天面から1U以上、背面から10cm以上の隙間を空ける 隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない 火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>
 禁止	<p>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。</p>




	警告	以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	分解禁止	<p>この機器のカバーは絶対に外さない カバーを外す、または改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。</p>
	注意	以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
	電源プラグをコンセントから抜く	<p>移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となる場合があります。</p>
	指示	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続する また、接続は指定のコードを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。</p>
	禁止	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災・感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。</p>
	禁止	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。
	注意	<p>5年に1度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご相談ください。 内部にほこりがたまったら、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。</p>




安全にお使いいただくために

電池の取り扱いについて

本機に付属するワイヤレスリモコンは、電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどを避けるため、以下の注意事項を必ず守ってください。

 警告 乾電池に関する警告	
 禁止	乾電池は絶対に充電しない 破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。

 警告 電池に関する警告	
 強制	電池を入れるときは、極性表示（プラスとマイナスの向き）に注意し、電池ケースに表示されている通りに正しく入れる 間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	長時間使用しないときは電池を取り出しておく 液が漏れて火災・けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースに付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一漏れた液が身体に付いたときは、水でよく洗い流してください。
 禁止	指定以外の電池は使用しない 新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない 破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損することがあります。
	炎天下の車内や暖房器具のそばなど、温度が高くなる所で保管しない 本体の変形によるショートや発火、故障、電池の劣化の原因となります。

 注意 電池に関する警告	
 禁止	金属製の小物類と一緒に携帯、保管しない。 ショートして液漏れや破裂などの原因となることがあります。
	電池を熱したり、火または水に投げ入れたりしない 電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
 分解禁止	分解しない 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

安全にお使いいただくために	2	オートトラック機能（自動トラック番号）.....	27
電池の取り扱いについて.....	4	録音トラック数の指定	28
第1章 はじめに.....	6	レックミュート.....	28
本機の概要.....	6	フェードイン/アウト.....	28
本製品の構成.....	6	コピー IDの設定.....	29
本書の表記.....	6	消去	29
商標および著作権に関して.....	6	第7章 カセットテープの録音/再生.....	30
設置上の注意.....	7	カセットテープの基本的な再生.....	30
電源について.....	7	カセットテープの基本的な録音.....	30
結露について.....	7	アナログレコードをカセットテープにダビング.....	31
製品のお手入れ.....	7	その他の機能.....	32
CD（コンパクトディスク）について.....	7	第7章 カセットテープの録音/再生.....	32
取り扱い上の注意.....	7	第8章 ダビング.....	33
CD-RとCD-RW.....	8	カセットテープをCDにダビング.....	33
ファイナライズとは.....	8	CDをカセットテープにダビング.....	33
OPCについて.....	8	ダビング時にINPUTつまみを無効にする.....	34
カセットテープについて.....	8	第9章 メッセージ一覧.....	35
リモコンについて.....	8	エラーメッセージ.....	35
ユーザー登録について.....	9	動作時のメッセージ.....	35
アフターサービス.....	9	第10章 仕様.....	36
第2章 各部の名称と働き.....	10	CD部.....	36
フロントパネル.....	10	カセット部.....	36
リアパネル.....	12	PHONOアンプ部.....	36
ディスプレイ.....	13	一般.....	37
リモコン（TASCAM RC-222MKIV）.....	14	寸法図.....	37
第3章 メニューの操作.....	15		
メニュー操作の基本.....	15		
第4章 CDの再生.....	16		
CDの基本的な再生.....	16		
サーチ.....	16		
時間表示.....	17		
再生モードについて.....	17		
ランダム再生モード.....	17		
プログラム再生モード.....	18		
リピート再生モード.....	18		
イントロチェック.....	19		
CDとカセットテープの連続再生.....	19		
オートスペース再生機能.....	20		
CDピッチコントロール再生.....	20		
CDキーコントロール再生.....	20		
第5章 MP3ファイルの再生.....	21		
MP3ファイルの再生.....	21		
全てのMP3ファイルを再生する.....	21		
ディレクトリを指定して再生する.....	21		
第6章 CD-R/RWの録音.....	23		
録音の前に.....	23		
入力信号の選択.....	23		
入力信号の調整.....	23		
入力信号のモニター.....	23		
サンプリングレートコンバーター.....	24		
CD-R/CD-RWの基本的な録音.....	24		
ファイナライズ.....	25		
時間表示モード.....	25		
アナログレコードをCDにダビング.....	26		
サウンドレベルの設定.....	26		
シンク録音.....	26		

第1章 はじめに

このたびは、TASCAM CD Recorder / Cassette Deck CC-222MKIVをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになった後は、いつでも見られる所に必ず保管してください。

また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) からダウンロードすることができます。

本機の概要

CC-222MKIVは、CDレコーダーとカセットテープレコーダーを搭載し、カセットテープとコンパクトディスク間の相互ダビングを手軽に行うことができます。また、外部のアナログおよびデジタル機器を接続することができますので、外部ソースの録音も可能です。さらに、アナログレコードプレーヤー（対応カートリッジ：MMタイプ）接続用のフォノ入力も装備していますので、レコードからCD-Rやカセットテープへのダビングも簡単にできます。

カセットレコーダーは、長年TASCAMで培われた技術を生かした設計により、高性能／高音質を実現しています。

CDレコーダーは、A/D、D/Aともに24ビット仕様のデバイスを搭載しました。内蔵のサンプリングレートコンバーターにより、44.1kHz以外のサンプリング周波数の入力ソースをCD-R / CD-RWに録音することも可能です。

ディスクのトラックの番号付けは、手動と自動の両方で可能です。自動の場合、本機が無信号入力を検出して番号を更新します。

必要に応じて、設定した時間によるフェードイン／フェードアウトをワンタッチで行うことができます。

パラメーター設定には、多機能のマルチダイヤルを使用します。

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管してください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、弊社までご連絡ください。

- 本体 x1
- 電源コード x1
- ワイヤレスリモコン (TASCAM RC-222MKIV) x1
- リモコン用単3形乾電池 x2
- ラックマウントビスキット x1
- 取扱説明書 (本書、保証書付き) x1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機のボタン／端子などを「MENUボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を **TRACK** のように表記します。
- 「CD-DA」形式のことを「オーディオCD」形式と表記する場合があります。
- MP3ファイルを記録したCDを「MP3ディスク」と表記します。
- 「オーディオCD」、「MP3ディスク」を総称して、「CD」と表記する場合があります。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

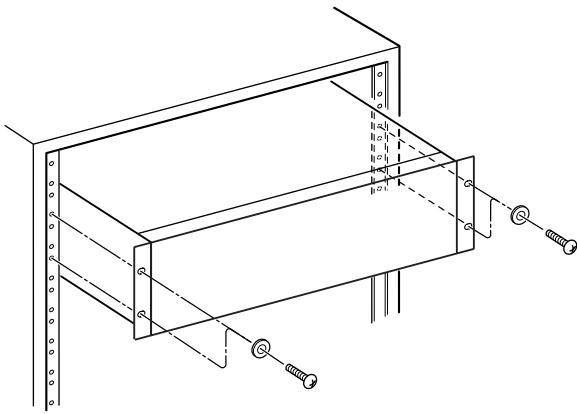
- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではありません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、またはこれらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負いたしません。

設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏5度～35度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。
 - 振動の多い場所
 - 窓際などの直射日光が当たる場所
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
 - 極端に温度が低い場所
 - 湿気の多い場所や風通しが悪い場所
 - ほこりの多い場所
- 本機は、水平に設置してください。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機をラックにマウントする場合は、付属のラックマウントビスキットを使って、下図のように取り付けてください。なお、ラック内部では、本機の上に1U以上のスペースを空けてください。



電源について

- 付属の電源コードをAC IN端子に奥までしっかりと差し込んでください。
- AC100V (50-60Hz) 以外の電源には、接続しないでください。
- 電源コードの抜き差しは、プラグを持って行ってください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置してから電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

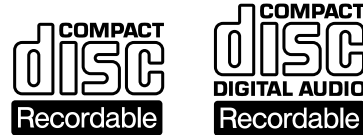
CD (コンパクトディスク) について

本機は、市販の音楽CDのほかに、オーディオCD (CD-DA) 形式で記録したCD-RやCD-RW、MP3オーディオファイルを記録したCD-RやCD-RWを再生することができます。また、8cmCDの再生も可能です。

取り扱い上の注意

- 録音には、以下のマークがあるコンパクトディスクをお使いください。

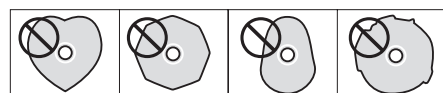
CD-R



CD-RW



- ディスクは、必ずレーベル面を上にして挿入してください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手で挟むように持ってください。
- 信号記録面（レーベルがない面）には、触れないでください。指紋や脂などが付着していると、再生するときにエラーの原因になることがあります。
- 信号記録面に指紋やほこりが付いた場合は、柔らかい布を使って中心から外側に向かって軽く拭いてください。ディスクの汚れは音飛びや音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。
- ディスクの清掃に、レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの化学薬品を使用することは絶対お止めください。表面が変質して再生不能になる恐れがあります。
- ディスクにラベルなどを貼ることはおやめください。盤面にセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがした跡があるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にセットすると、ディスクが取り出せなくなる、または故障の原因となることがあります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できない、または故障の原因になります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
- ハート形や名刺形、八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因になりますので使用しないでください。



- いくつかのレコード会社より「コピーコントロールCD」と銘打った著作権保護を目的としたディスクが販売されています。これらはCD規格に準拠していないディスクも存在するため、本機で再生できない場合があります。

第1章 はじめに

CD-RとCD-RW

CD-Rには、一度だけしか記録できません。記録したトラック（曲）を消去することもできません。ただし、ファイナライズ処理を施していないディスクで、ディスクの記録可能時間が残っている場合は、追加記録が行えます。記録が終わったCD-Rは、ファイナライズ処理を施すことで、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります（一部のCDプレーヤーでは、再生できないことがあります）。CD-RWは、記録可能容量を使い終わった場合でも、記録内容を消去すれば繰り返し使用することができます。途中の曲だけを消去することはできません。CD-RWは、ファイナライズ処理を施してもCD-RWに対応したCDプレーヤーでしか再生できません。

ファイナライズとは

CD-RやCD-RWは、音声データを録音した後でも、最終的なTOC*の情報をディスクに記録しなければ、一般のCDプレーヤーで再生することはできません。このTOCを記録することをファイナライズといいます。

ファイナライズしたディスクには、それ以上録音することができません。ただしCD-RWの場合は、アンファイナライズ（ファイナライズの取り消し）すれば再び録音することができます。

※ TOC（Table of Contents）＝ 録音したデータの情報

OPCについて

OPC*とは、録音するディスクの特性に合わせてレーザーパワーを調整することです。停止状態から録音待機状態にするときに行われます。

OPCを行っている間は、ディスプレイに Now OPC と表示されます。

※ OPC（Optimum Power Control）

カセットテープについて

使用テープ

録音可能テープ : タイプI（ノーマル）
タイプII（ハイポジション/クローム）
再生可能テープ : タイプI（ノーマル）
タイプII（ハイポジション/クローム）
タイプIV（メタル）

録音防止用つまめ

誤って録音内容を消してしまうミスを防ぐために、録音防止用のつまめがあります。つまめはカセットテープのA（1）面、B（2）面にそれぞれあります。ドライバーの先などで折って取り除くと、録音防止装置が働いて録音できません。

再度、録音をしたいときは、セロハンテープを貼ってつまめ穴をふさいでください。

テープの「たるみ」

ご使用前に、カセットテープのテープがたるんでいないか確かめてください。テープがキャプスタンなどに巻き込まれることがあります。鉛筆などでたるみを巻き取ってください。

カセットテープの自動検出孔について

カセットテープにはテープ自動検出孔が付いています。本機では、テープの種類を自動検出します。

お使いいただけないカセットテープ

次のようなカセットテープを使用すると、正常な動作や性能が得られないことがあります。また、テープが巻き込まれて思わぬトラブルを起こすこともありますので、使わないでください。

● 形状精度の悪いカセットテープ

カセットが変形する、テープの走行が不安定なもの、早送り／巻き戻し中に異音を発生するカセットテープ。

● 長時間テープ

90分を越えるカセットテープは、大変薄くて伸びやすいため、ワウフラッターの原因ともなります。また、テープが機械に巻き込まれることがありますので、使わないでください。

取り扱い上のご注意

- カセットテープを分解する、またはテープを引き出さないでください。
- テープの磁性体コーティング面に直接手を触れないでください。
- ゴミやほこりの多い場所に放置しないでください。
- 高温・多湿の場所での使用、保管は避けてください。
- 強磁場での使用、保管は避けてください。雑音が入る、録音内容が消えてしまうことがあります。

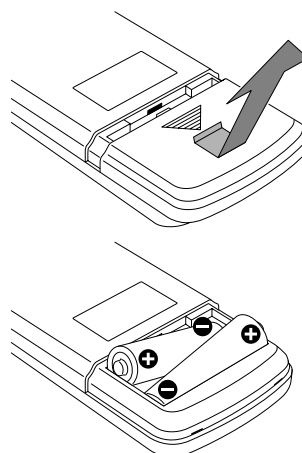
リモコンについて

ご使用上のご注意

- リモコンは、本体右端のREMOTE SENSORウィンドウに向けて操作してください。
- 長い間（1ヶ月以上）リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出してください。もし液漏れを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 赤外線によりコントロールする他の機器を使用時に、本機のリモコンを操作すると、その機器を誤操作させることがあります。

電池の入れ方

1. 裏側のふたを開ける。
2. 乾電池の⊕と⊖の向きに注意して、単3形電池を2本挿入します。
3. ふたを閉める。



電池の交換時期は

操作範囲が狭くなる、またはボタンを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。

電池についてのご注意

乾電池を誤って使用すると、液漏れや破裂などの原因となることがあります。電池の注意表示をよく見てご使用ください。

- 乾電池の⊕と⊖の向きを、電池ケースの指示どおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池には、同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は、絶対に充電しないでください。

ユーザー登録について

TASCAMのウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

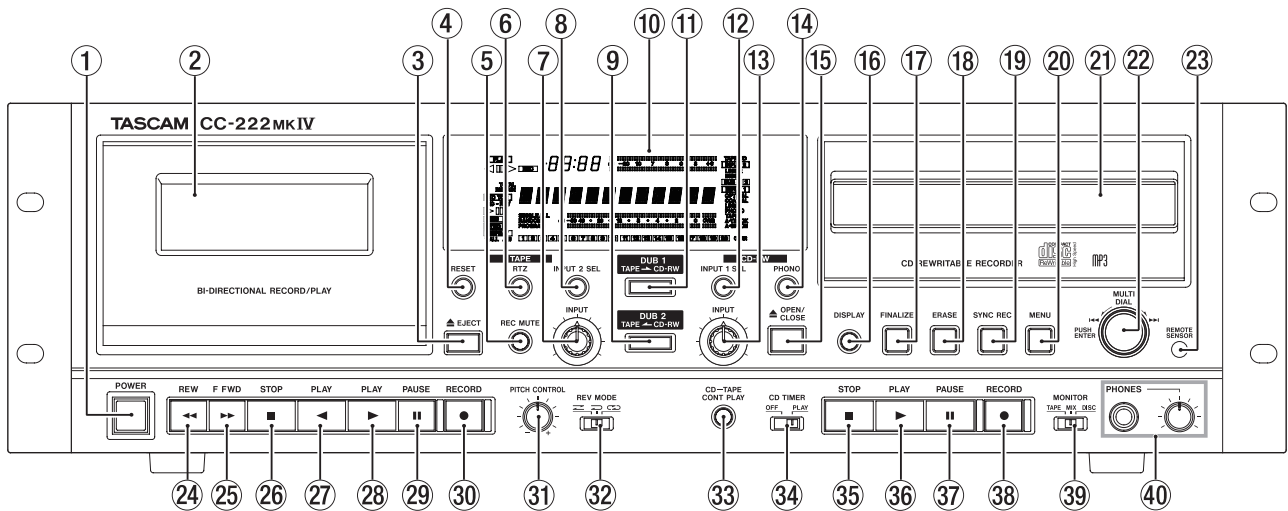
<http://tascam.jp/support/registration/>

アフターサービス

- この製品には、保証書が添付（裏表紙に記載）されております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししていますので、大切に保管してください。万が一販売店の捺印やご購入日の記載がない場合は、無償修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店・ご購入日が確認できる物を一緒に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センター（裏表紙に記載）が無償修理いたします。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）までご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。
なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
 - 型名、型番（CC-222MKIV）
 - 製造番号（Serial No.）
 - 故障の症状（できるだけ詳しく）
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、裏表紙をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

第2章 各部の名称と働き

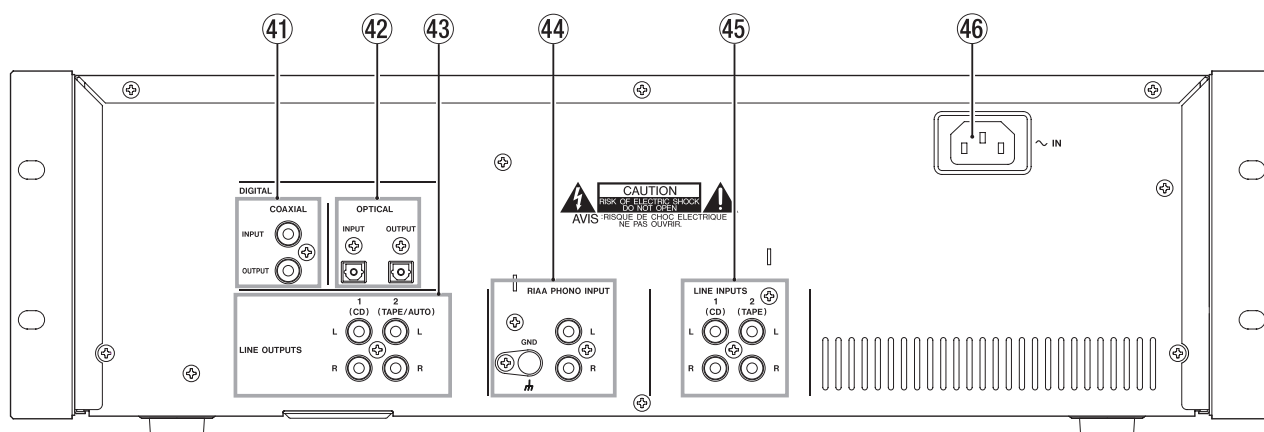
フロントパネル



- ① **POWERスイッチ**
電源をオン/オフします。
- ② **カセットホルダー**
カセットテープを挿入します。テープ側を下にして、挿入してください。
EJECTボタンを押すと、カセットホルダーが開きます。閉じるときは、手で軽く押します。
- ③ **EJECTボタン**
カセットホルダーを開きます。
- ④ **RESETボタン**
テープカウンターを0000にします。
- ⑤ **REC MUTEボタン**
カセットテープ録音中にこのボタンを押すと、約4秒間の無信号録音を行った後に録音待機状態になります。
- ⑥ **RTZボタン**
カセットテープを0000位置にロケート（移動）します。
- ⑦ **INPUTつまみ（カセット部）**
カセット部の入力レベルを調整します。
メニューの DUB > VOL 項目を THRU に設定しておく、ディスクからの自動ダビング時にはINPUTつまみは機能しくなくなります。
- ⑧ **INPUT 2 SELボタン**
カセット部の録音ソース（LINE 2 または DISC）を選択します。
- ⑨ **DUB 2 [TAPE ← CD-RW] ボタン**
このボタンを押すと、ディスクからカセットテープへの自動ダビングが始まります。（→ 33ページ「CDをカセットテープにダビング」）
- ⑩ **ディスプレイ**
トランスポート状態、選択中の録音ソース、録音/再生信号レベル、メニューなどを表示します。
- ⑪ **DUB 1 [TAPE → CD-RW] ボタン**
このボタンを押すと、カセットテープからCD-R / CD-RWへの自動ダビングが始まります。（→ 33ページ「カセットテープをCDにダビング」）
- ⑫ **INPUT 1 SELボタン**
CDレコーダーの録音ソース（OPTICAL / COAXIAL / LINE 1 / PHONO / TAPE）を選択します。
- ⑬ **INPUTつまみ（CD側）**
CDレコーダーの入力レベルを調整します。
メニューの DUB > VOL 項目を THRU に設定しておく、カセットテープからの自動ダビング時にはINPUTつまみは機能しくなくなります。
- ⑭ **PHONOボタン**
RIAA PHONO INPUT端子に入力されるアナログレコードプレーヤー（対応カートリッジ：MMタイプ）の再生信号をCDやカセットテープに録音することができます。
メニューを使ってCDとカセットテープのどちらに録音するかを選択します。（→ 26ページ「アナログレコードをCDにダビング」）（→ 31ページ「アナログレコードをカセットテープにダビング」）
- ⑮ **OPEN/CLOSEボタン**
ディスクトレイを開閉します。
- ⑯ **DISPLAYボタン**
ディスプレイに表示するディスクの時間モードを切り換えます。
- ⑰ **FINALIZEボタン**
CD-R / CD-RWをファイナライズするときに使います。
- ⑱ **ERASEボタン**
CD-RWのデータを消去するときに使います。
- ⑲ **SYNC RECボタン**
シンク録音機能をオン/オフします。
- ⑳ **MENUボタン**
メニューを表示します。
- ㉑ **ディスクトレイ**
OPEN/CLOSEボタンを押してディスクトレイを開け、ディスクのセット/取り出しを行います。
ディスクトレイを閉じるときは、OPEN/CLOSEボタンを押します。

- ② **MULTI DIAL (◀◀ / ▶▶)**
 ディスク停止中、メニュー操作の際にこのダイヤルを回して選択肢を選びます。また、操作の確認表示がディスプレイに現れた場合にこのダイヤルを押すと「実行」します。
 ディスク再生中、トラックスキップを行います。
 ディスク録音中、録音トラック数の表示、指定を行います。
- ③ **REMOTE SENSORウィンドウ**
 リモコンからの赤外線信号を受信します。
 リモコン使用時は、このウィンドウに向けて操作してください。
 また、リモコンからの信号を正しく受けるよう、このウィンドウをふさがないようにご注意ください。
- ④ **REWボタン**
 カセットテープを巻き戻します。
- ⑤ **F FWDボタン**
 カセットテープを早送りします。
- ⑥ **STOPボタン (カセット部)**
 カセットテープを停止します。
- ⑦ **PLAY [◀] ボタン (カセット部)**
 カセットテープをリバース (逆) 方向に再生します。
 録音待機中 / 再生一時停止中は、録音 / 再生を開始します。
- ⑧ **PLAY [▶] ボタン (カセット部)**
 カセットテープをフォワード (正) 方向に再生します。
 録音待機中 / 再生一時停止中は、録音 / 再生を開始します。
- ⑨ **PAUSEボタン (カセット部)**
 再生や録音を一時停止します。
 録音待機 / 再生一時停止時は、録音 / 再生を開始します。
- ⑩ **RECORDボタン (カセット部)**
 停止中に押すと、録音待機状態になります。
- ⑪ **PITCH CONTROLつまみ**
 テープスピードを±10%の範囲で調整することができます。
- ⑫ **REV MODEスイッチ**
 テープ走行モードを、片方向 (⌂)、両方向 (↔)、連続 (∞) (再生のみ)、の中から選択します。
 録音と再生の両方に働きます。
- ⑬ **CD-TAPE CONT PLAYボタン**
 CDとカセットテープの連続再生モードのオン / オフを行います。
- ⑭ **CD TIMER (OFF / PLAY) スイッチ**
 CDタイマーの設定を行います。
 「PLAY」側に設定しておくと、CDをセットした状態で本機の電源を入れたときにCDが自動的に再生を始めます。
- ⑮ **STOPボタン (CD側)**
 録音や再生を停止します。
- ⑯ **PLAYボタン (CD側)**
 再生を開始します。
 録音待機中 / 再生一時停止中にこのボタンを押すと、録音 / 再生を開始します。
- ⑰ **PAUSEボタン (CD側)**
 録音や再生を一時停止します。
 録音待機中 / 再生一時停止中は、録音 / 再生を開始します。
- ⑱ **RECORDボタン (CD側)**
 録音待機状態にします。
 CDが入っていないときは、モニターモードになります。
 録音時に押すと、トラック番号を更新します。
- ⑳ **MONITOR (TAPE / MIX / DISC) スイッチ**
 ヘッドホン出力のモニターソースを選択します。
 カセット部、CD部または両方のミックスの中から選択できます。
- ㉑ **PHONES端子 / つまみ**
 ヘッドホン (6.3mmステレオ標準プラグ) を接続します。
 右側のつまみでヘッドホンの音量を調整します。

リアパネル



④1 **DIGITAL COAXIAL (INPUT / OUTPUT) 端子**

④2 **DIGITAL OPTICAL (INPUT / OUTPUT) 端子**

それぞれIEC60958-3 (S/PDIF) のデジタル入力/出力端子です。

入力信号は、CD部の録音ソースにもなります。また、サンプリングレートコンバーター機能により、サンプリング周波数が32kHz～48kHzの範囲のデジタル音声信号を入力することができます。

出力端子からは、CDのデジタル音声信号が出力されます。

④3 **LINE OUTPUTS 1 (CD) (L / R) 端子 / 2 (TAPE / AUTO) (L / R) 端子**

1 (CD) 端子からはCDのアナログ音声信号、2 (TAPE / AUTO) 端子からはカセットのアナログ音声信号が出力されます。

2 (TAPE/AUTO) 端子は、メニュー選択によりカセットとCDの再生音を自動切り換え（カセットの再生音が優先）で出力することもできます。

アンプなどの機器と接続します。

④4 **RIAA PHONO INPUT (L / R) 端子 / GND端子**

アナログレコードプレーヤー（対応カートリッジ：MMタイプ）を接続します。

入力信号の送り先（CD部またはカセット部）は、メニューで選択します。

GND端子には、アナログレコードプレーヤーのアース線を接続します。

メモ

アナログレコードプレーヤーをLINE INPUTS 1 (CD) 端子およびLINE INPUTS 2 (TAPE) 端子に接続しないでください。また、ライン出力の機器をRIAA PHONO INPUT (L / R) 端子に接続しないでください。

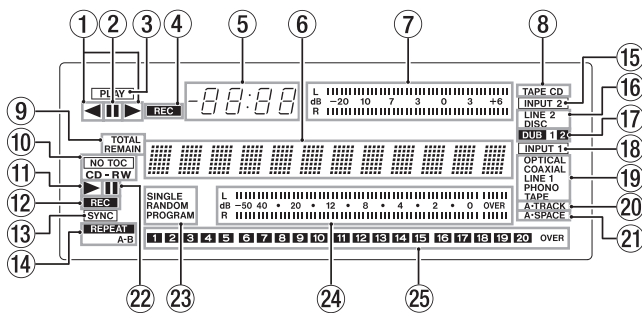
④5 **LINE INPUTS 1 (CD) (L / R) / 2 (TAPE) (L / R) 端子**

1 (CD) 端子にはCD部のアナログ入力、2 (TAPE) 端子にはカセット部のアナログ入力を接続します。

④6 **AC IN端子**

付属の電源コードを接続します。

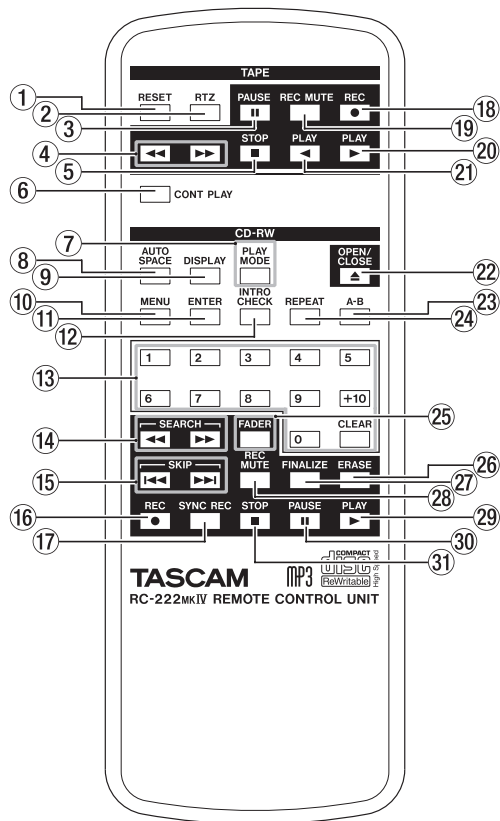
ディスプレイ



- ① ◀ / ▶ (テープ走行方向表示) インジケータ
カセットテープの再生/録音時の走行方向が点灯します。
▶はフォワード(正)方向、◀はリバース(逆)方向を示します。
- ② || (PAUSE) インジケータ (カセット部)
カセットテープが再生一時停止中、または録音待機中に点灯します。
- ③ PLAY (カセット部)
カセットテープが再生/録音中に点灯します。
- ④ REC (カセット部)
カセットテープに録音中、または録音待機中に点灯します。
- ⑤ テープカウンター
カセットテープの走行(テープリールの回転)に合わせて変化します。リバース(逆)方向走行時は数字が減少します。
0000 ~ 9999 までカウントしますが、リバース(逆)方向走行時 0000 以下は 9999 に戻ります。
- ⑥ キャラクター表示部
ディスクのトラック情報、時間情報、メニュー、メッセージを表示します。
- ⑦ レベルメータ (カセット部)
カセットテープの再生レベル、録音入力レベルを表示します。
- ⑧ TAPE-CD連続再生モード表示
CDとカセットテープの連続再生モード(CD-TAPE CONT PLAY)中の状態表示を行います。
カセットテープ再生中は TAPE が点滅し、CD再生中は CD が点滅します。
- ⑨ 時間表示モード表示
時間表示モードに合わせて TOTAL(全時間)と REMAIN(残時間)が点灯します。両方とも消灯しているときは、再生中のトラック内の経過時間表示モードになります。
- ⑩ ディスク情報表示
TOCが書き込まれていないディスク(ファイナライズしていないディスク)は NO TOC が点灯します。
CD-Rが入っているときは、CD-R が点灯します。
CD-RWの場合は、CD-RW が点灯します。
- ⑪ ▶ (PLAY) インジケータ (CD部)
ディスクが再生中に点灯します。
- ⑫ REC (CD部)
CD-R / CD-RWに録音中、録音待機中に点灯します。
- ⑬ SYNC
シンク録音機能をオンにすると点灯します。
- ⑭ リピートモード表示
リピートモードにすると、[REPEAT] が点灯します。
A-Bリピートモードでは、[REPEAT] と A-B が点灯します。
A-Bリピートポイントを指定している途中(Bポイントが未定の状態)のときは、A-B が点滅します。

- ⑮ INPUT 2
通常は点灯しており、その下に表示される録音ソース表示が INPUT 2に対する物であることを示しています。
PHONOボタンを使ったアナログレコードからの録音動作時のみ、カセットテープへの録音かディスクへの録音かを示す機能になり、CD-RWへの録音中は消灯します。
- ⑯ LINE 2、DISC
INPUT 2(カセットテープ)への録音ソースを表示します。
LINE 2 : LINE 2(ライン入力端子)が選択されているときに点灯します。
DISC : DISC(ディスク再生出力との内部接続)に選択されているときに点灯します。
- ⑰ ダビング状態表示
ダビング状態を表示します。
カセットテープからディスクへダビングするときは、DUB と 1 が点灯します。
ディスクからカセットテープへダビングするときは、DUB と 2 が点灯します。
- ⑱ INPUT 1
通常は点灯しており、その下に表示される録音ソース表示が INPUT 1(ディスク)に対する物であることを示しています。
PHONOボタンを使ったアナログレコードからの録音動作時のみディスクへの録音かカセットテープへの録音かを示す機能となり、カセットテープへの録音中は消灯します。
- ⑲ OPTICAL、COAXIAL、LINE 1、TAPE
INPUT 1(ディスク)への録音ソースを表示します。
OPTICAL : OPTICAL(光デジタル入力端子)が選択されているときに点灯します。
COAXIAL : COAXIAL(同軸デジタル入力端子)が選択されているときに点灯します。
LINE 1 : LINE 1(ライン入力端子)が選択されているときに点灯します。
PHONO : PHONO(アナログレコード入力端子)が選択されているときに点灯します。
TAPE : TAPE(カセットテープ)が選択されているときに点灯します。
- ⑳ A・TRACK
オートトラック機能をオンにすると点灯します(オートトラック機能を TIME に設定した場合のみ録音中に点滅します)。
- ㉑ A・SPACE
オートスペース再生機能をオンにすると点灯します。
- ㉒ || (PAUSE) インジケータ (CD部)
ディスクが再生一時停止中、録音待機中に点灯します。
- ㉓ 再生モード表示
シングル再生モードでは、SINGLE が点灯します。
ランダム再生モードでは、RANDOM が点灯します。
プログラム再生モードでは、PROGRAM が点灯します。
通常の再生モードでは、これら3つのインジケータが全て消灯します。
- ㉔ レベルメータ (CD部)
ディスクの再生レベル、録音入力レベルを表示します。
- ㉕ ミュージックカレンダー (CD部)
再生可能なトラック番号が点灯します。
トラック番号21以上は、OVER が点灯します。
再生が終了したトラック番号は、消灯します。

リモコン (TASCAM RC-222MKIV)



- ① **RESETボタン**
テープカウンターを0000にします。
- ② **RTZボタン**
テープを0000位置 (RTZ:Return to Zero) にロケート (移動) します。
- ③ **PAUSEボタン**
カセットテープの再生や録音を一時停止します。
録音待機中/再生一時停止中は、録音/再生を開始します。
- ④ **◀ / ▶ ボタン (カセット部)**
カセットテープを巻き戻し/早送りします。
- ⑤ **STOPボタン (カセット部)**
カセットテープを停止します。
- ⑥ **CONT PLAYボタン**
CDとテープの連続再生モードのオン/オフを行います。
本体のCD-TAPE CONT PLAYボタンと同じ働きをします。
- ⑦ **PLAY MODEボタン**
CDの再生モードを、通常の再生、1曲再生 (シングル)、プログラム再生、ランダム再生の中から選択します。
- ⑧ **AUTO SPACEボタン**
ディスクトラック再生時に、自動的にトラック間に約4秒のスペース (無音部分) を入れます。
- ⑨ **DISPLAYボタン**
ディスプレイに表示するディスクの時間表示モードを切り換えます。
- ⑩ **MENUボタン**
メニューを表示します。
- ⑪ **ENTERボタン**
操作の確認がディスプレイに表示された場合、このボタンを押すと「実行」します (本体のMULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) を押したときと同じ働きをします)。
- ⑫ **INTRO CHECKボタン**
CDの各トラックの冒頭を10秒ずつ再生します。
- ⑬ **数字ボタン (0~9ボタン、+10ボタン) / CLEARボタン**
CDの選曲に使います。
- ⑭ **SEARCH (◀◀ / ▶▶) ボタン**
CDのサーチ (早戻し/早送り) を行います。
- ⑮ **SKIP (◀◀ / ▶▶) ボタン**
メニューの選択肢を選ぶ、またはCDトラックのスキップを行います (本体のMULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) を回したときと同じ働きをします)。
- ⑯ **RECボタン (CD部)**
録音待機状態にします。
ディスクが入っていないときは、モニターモードになります。
録音中に押すと、トラック番号が更新 (インクリメント) されます。
- ⑰ **SYNC RECボタン**
シンク録音機能をオン/オフします。
- ⑱ **RECボタン (カセット部)**
停止中に押すと、録音待機状態になります。
- ⑲ **REC MUTEボタン**
カセットテープ録音中にこのボタンを押すと、約4秒間の無信号録音を行った後に停止します。
- ⑳ **PLAY [▶] ボタン (カセット部)**
カセットテープをフォワード (正) 方向に再生します。
- ㉑ **PLAY [◀] ボタン (カセット部)**
カセットテープをリバース (逆) 方向に再生します。
- ㉒ **OPEN/CLOSEボタン**
ディスクトレイを開閉します。
- ㉓ **A-Bボタン**
A-Bリピート区間の始点と終点を設定します。
A-Bリピート中に押すと、A-Bリピートモードが解除されます。
- ㉔ **REPEATボタン**
CDのリピートモードをオン/オフします。
- ㉕ **FADERボタン**
CD-R / CD-RWに録音をするとき、自動的にフェードイン/アウトを行います。フェードタイムは、メニューで設定できます。
- ㉖ **ERASEボタン**
CD-RWのデータを消去するときに使います。
- ㉗ **FINALIZEボタン**
ディスクをファイナライズするときに使います。
- ㉘ **REC MUTEボタン**
CD-R / CD-RWに録音中、このボタンを押すと約4秒間の無信号録音を行った後に停止します。
- ㉙ **PLAYボタン (CD部)**
再生を開始します。
録音待機中にこのボタンを押すと録音を開始します。
- ㉚ **STOPボタン (CD部)**
録音や再生を停止します。
- ㉛ **PAUSEボタン (CD部)**
録音や再生を一時停止します。
録音待機中/再生一時停止中は、録音/再生を開始します。

本機は、メニューシステムを使って各種初期設定を行います。
本機のメニューと初期設定は、以下の通りです。

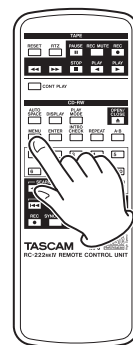
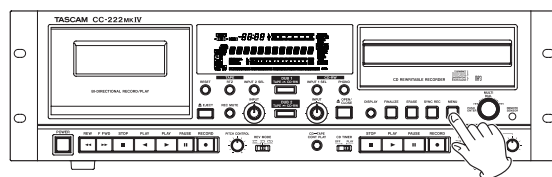
メニュー表示	機能	初期設定	参照ページ
CD PITCH	CDのピッチコントロール機能のオン/オフ設定	OFF	→ 20 ページ
PITCH	CDのピッチコントロール値の設定	0.0%	→ 20 ページ
CD KEY	CDのキーコントロール機能のオン/オフ設定	OFF	→ 20 ページ
KEY LEVEL	CDのキーコントロール値の設定	0	→ 20 ページ
SRC	サンプリングレートコンバーター機能のオン/オフ	ON	→ 24 ページ
VOLUME	デジタルボリューム値の設定	0dB	→ 23 ページ
A_TRK	オートトラック機能の設定	LEVEL	→ 27 ページ
A_TIME	タイムトラックインクリメント時間の設定	1min	→ 27 ページ
S_LVL	サウンドレベルの設定	-24dB (アナログ) -54dB (デジタル)	→ 26 ページ
COPY ID	コピー IDの設定	1GEN	→ 29 ページ
FADE IN	フェードインタイムの設定	3s	→ 28 ページ
FADE OUT	フェードアウトタイムの設定	3s	→ 28 ページ
DUB>VOL	ダビング時のボリュームコントロール	VOL THRU	→ 33 ページ
PHONO	フォノ入力時の録音先の設定	DISC	→ 26 ページ → 31 ページ
MP3 DIR	MP3ディスクのディレクトリ再生の設定	OFF	→ 21 ページ
OUT 2	LINE OUTPUTS 2 (TAPE) 端子の出力信号選択	TAPE	→ 32 ページ

メモ

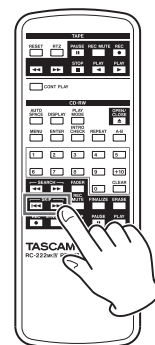
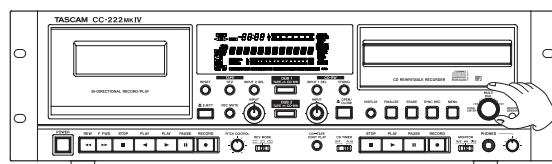
メニューの設定値およびINPUT 1 SELボタンおよびINPUT 2 SELボタンの設定は、バックアップされます。

メニュー操作の基本

1. 本体または付属の専用リモコン (TASCAM RC-222MKIV) のMENUボタンを押して、希望するメニューを表示します。



2. MULTI DIAL (◀ / ▶) またはリモコンのSKIP (◀ / ▶) ボタンを押して、設定値を選択します。



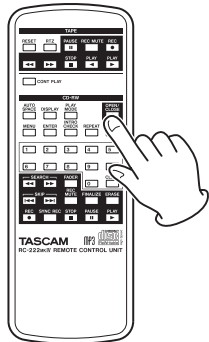
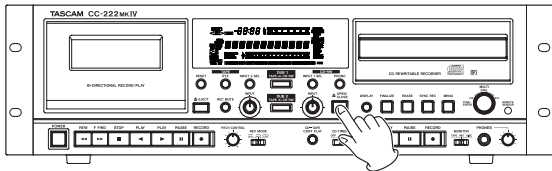
メニューを抜けるときは、MULTI DIAL (◀ / ▶) またはリモコンのENTERボタンを押します。また、本体またはリモコンのMENUボタンを何度か押して、通常表示 (カウンター表示) に戻します。

第4章 CDの再生

CDの基本的な再生

本機のCDレコーダーは、市販のCD（CD-DA）およびCD-R / CD-RWを再生することができます（通常のCDプレーヤーではファイナライズ済みのディスクしか再生できませんが、本機ではファイナライズが済んでいないディスクも再生することができます）。

1. POWERボタンを押して、電源を入れます。
2. OPEN/CLOSEボタンを押して、ディスクトレイを開けます。



3. ディスクのレーベル面を上にして、ディスクトレイに載せま
す。
4. OPEN/CLOSEボタンを押して、ディスクトレイを閉めます。
 - TOC Reading を表示した後、ディスクの種類、総トラック数、総再生時間を表示します。
 - トラック番号を示すインジケータがディスプレイの下側に、最大20まで点灯します。ディスクの総トラック数が20以上の場合は OVER が点灯します。
 - ディスクの種類は、以下のように表示されます。
CD : 市販のCD
CD-R : CD-R
CD-RW : CD-RW
NO TOC : ファイナライズしていないCD-RまたはCD-RW
5. PLAYボタンを押して再生を始めます。
 - 再生が終了したトラック番号のインジケータが消えます。

再生を止めるには

STOPボタンを押します。

再生を一時停止するには

PAUSEボタンを押します。

もう一度PLAYボタンまたはPAUSEボタンを押すと、再び再生が始まります。

ディスクを取り出すには

OPEN/CLOSEボタンを押します。

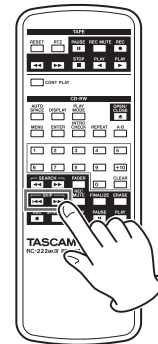
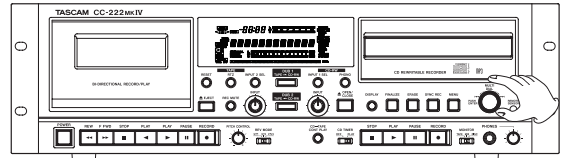
再生を停止してディスクトレイが開きます。

サーチ

トラックスキップ

本体のMULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) を左右に回すと、フォワード方向/リバース方向にトラックがスキップします。

リモコンでは、SKIP (◀◀ / ▶▶) ボタンを使います。

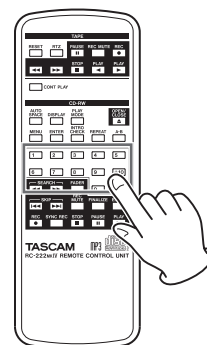


メモ

- 再生状態で操作すると、スキップ後に再生開始します。
- プログラムモード再生中は、プログラムした曲の中でスキップを行います。
- 停止状態でトラックを選んだ場合は、その状態ではまだ何も動作しません。希望のトラック番号が表示されている状態でPLAY/PAUSEボタンを押してください。
- ディスクの最初のトラックでMULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) を左に回すと、最後のトラックにスキップします。最後のトラックでMULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) を右に回すと、最初のトラックにスキップします。

数字ボタン (0 ~ 9ボタン、+10ボタン)

リモコンの数字ボタン (0 ~ 9ボタン、+10ボタン) を押すと、ダイレクトにトラックを選択できます。



- 例
- | | |
|--------|-----------------|
| トラック5 | : 5 |
| トラック15 | : +10 → 5 |
| トラック23 | : +10 → +10 → 3 |

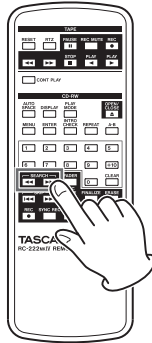
また、プログラムモードでは、プログラムの設定に数字ボタン (0 ~ 9ボタン、+10ボタン) を使います。

注意

- ランダム再生モードでは操作できません。
- 存在しないトラックは受け付けません。

サーチ

リモコンのSEARCH (◀◀ / ▶▶) ボタンを押し続けると、フォワード方向/リバース方向にディスクをサーチします。

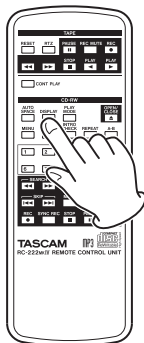
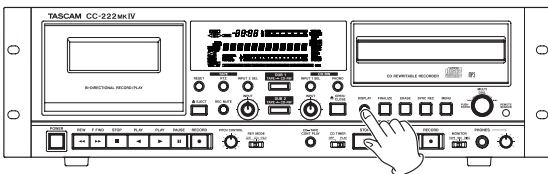


注意

MP3ディスクでは、サーチは行えません。

時間表示

CD再生中は、4種類のモードで時間を表示することができます。DISPLAYボタンを押して、時間表示モードを切り換えます。



停止中は、TOTAL 表示に固定されます。

- 表示なし : 現在のトラックの経過時間を表示します。
- TOTAL : ディスクの経過時間を表示します。
- REMAIN : 現在のトラックの残り時間を表示します。
- TOTAL REMAIN : ディスクの残り時間を表示します。

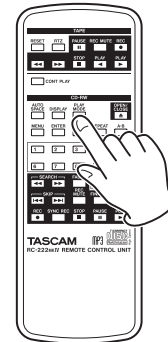
メモ

プログラムモードでは、ディスク全体ではなくプログラム全体の経過時間と残り時間を表示します。

再生モードについて

本機には、4つの再生モードがあります。

停止中にリモコンのPLAY MODEボタンを押して、再生モードを切り換えることができます。



選択中の再生モードがディスプレイに表示されます。

- Continue : 通常の再生 (ディスクの最後のトラックまでをトラック順に再生)
- Single : 選択したトラックを再生後に停止
- Random : ランダムに再生 (→ 17ページ「ランダム再生モード」)
- Program : プログラム順に再生 (→ 18ページ「プログラム再生モード」)

- 電源を入れたときは、通常の再生モード (Continue) になります。

ランダム再生モード

トラック (曲) をランダムに再生します。

1. リモコンのPLAY MODEボタンを押して、ランダム再生モードにします。
ディスプレイにRANDOM インジケーターが点灯します。
2. PLAYボタンを押すと、ランダム再生が始まります。
 - ランダム再生中にMULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) を右に1回転すると、次のトラックがランダムに選択されます。
3. ランダム再生を停止するときは、STOPボタンまたはOPEN/CLOSEボタンを押します。

注意

ランダム再生モードのときは、スキップおよびサーチにより前のトラックに戻すことはできません。

プログラム再生モード

最大99トラック（曲）までプログラムを組んで再生することができます。

1. 停止中にリモコンの**PLAY MODE**ボタンを押して、プログラム再生モードにします。
ディスプレイの**PROGRAM** インジケータが点灯します。
2. リモコンの数字ボタン（0～9ボタン、+10ボタン）を使ってトラック番号を入力します。
プログラムしたいトラックを続けて入力することができます。
3. **PLAY**ボタンを押して、プログラム再生を始めます。

注意

- プログラム再生中は、ランダム再生はできません。
- 再生中は、プログラムモードに切り換えることができません。
プログラムモードにしたい場合は、停止中に行ってください。

メモ

- **MULTI DIAL** (◀◀ / ▶▶) を使って、プログラムすることもできます。**MULTI DIAL** (◀◀ / ▶▶) を回してトラックを選び、**MULTI DIAL** (◀◀ / ▶▶) を押すとプログラムできます。なお、再生中は**MULTI DIAL** (◀◀ / ▶▶) を回すとトラックをスキップします。
- プログラムできるのは、99曲までです。それ以上をプログラムしようとすると、エラーメッセージ **PGM Full!** が表示されます。
- プログラムした曲の合計時間が100分以上になると、---:--が表示されます。

プログラムに曲を追加するには

リモコンの数字ボタン（0～9ボタン、+10ボタン）を使って追加したいトラック番号を入力します。プログラムの最後に入力したトラックが追加されます。

プログラムの一部を削除するには

リモコンの**CLEAR**ボタンを押します。
最終トラック（曲）のプログラムが消去されます。

全てのプログラムを消去するには

次のいずれかを行います。

- リモコンの**PLAY MODE**ボタンを押して、プログラム再生モード以外のモードに切り換えます。
- **OPEN/CLOSE**ボタンを押します。
- 停止中に、**STOP**ボタンを押します。
- **POWER**スイッチを押して、電源を切ります。

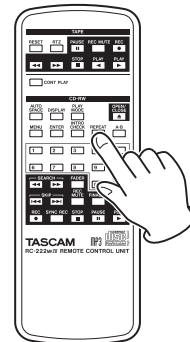
リピート再生モード

2つのリピート再生モードがあります。

通常のリピート再生

ディスクの全てのトラックを繰り返し再生します。

1. リモコンの**REPEAT**ボタンを押して、リピート再生をオンにします。



ディスプレイに **Repeat ON** が表示され、**[REPEAT]** インジケータが点灯します。

この状態で、ディスクの全てのトラックを繰り返し再生できます。

再生中にリピート再生をオンした場合は、そのまま再生を続け、ディスクの最後まで再生すると先頭に戻って再生を続けます。

停止中にオンした場合は、**PLAY**ボタンを押すとリピート再生が始まります。

2. リピート再生をオフするには、リモコンの**REPEAT**ボタンをもう一度押します。

ディスプレイに **Repeat OFF** が表示され、**[REPEAT]** インジケータが消灯します。

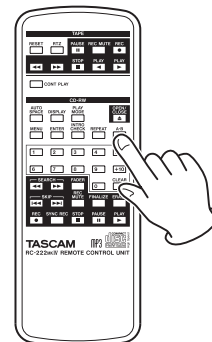
メモ

リピート再生をシングル再生、プログラム再生、ランダム再生と組み合わせると、1曲リピート、プログラムリピート、ランダムリピートが行えます。

A-Bリピート再生

トラック内の区間（A-B）を指定して、繰り返し再生します。

1. 再生中、リピート再生したい区間の始点（Aポイント）で、リモコンの**A-B**ボタンを押します。



ディスプレイの**[REPEAT]** インジケータが点灯し、**A-B** インジケータが点滅します。

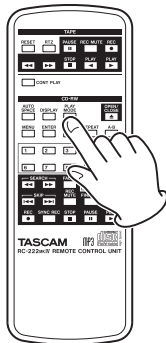
2. リピート再生したい区間の終点（Bポイント）でA-Bボタンを押します。
ディスプレイの【REPEAT】インジケータが点灯し、A-Bインジケータが点灯します。
3. A-Bリピート再生をオフするには、リモコンのA-Bボタンを押します。
ディスプレイの【REPEAT】インジケータと、A-Bインジケータが消灯し、A-Bリピート再生が解除されます。再生中に解除した場合は、A-Bリピート再生の終点に指定した位置を越えても再生が続きます。

注意

- STOPボタンを押すと、A-Bリピート再生モードを解除します。
- Aポイントよりも前の時間にBポイントを設定することはできません。
- MP3ファイルのA-Bリピート再生はできません。
- 複数のトラックにまたがったA-Bリピート再生はできません。

イントロチェック

停止中にリモコンのINTRO CHECKボタンを押すと、CDの各トラックの冒頭が10秒ずつ再生されます。



イントロチェックを途中でやめるには、STOPボタンを押します。イントロチェック中にもう一度リモコンのINTRO CHECKボタンを押すと、通常再生になります。

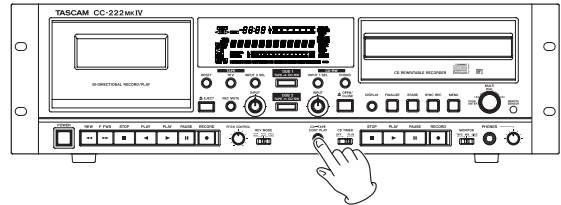
メモ

シングル再生モード/ランダム再生モードにてリモコンのINTRO CHECKボタンを押した場合は、通常の再生モードに戻してからイントロ再生を行います。

CDとカセットテープの連続再生

本機にセットしたCDとカセットテープを連続再生することができます。

1. カセットテープとCDを装着します。
2. CD-TAPE CONT PLAYボタン（リモコンの場合はCONT PLAYボタン）を押します。



ディスプレイのTAPE CDインジケータが点滅します。

3. CD部またはカセット部のPLAYボタンを押します。
選択した再生ソースが再生を始め、再生が終わると他方の再生ソースが再生を始めます。
選択した再生ソースを示すインジケータ（TAPEあるいはCD）は点滅したままで、次に再生を開始する側のインジケータ（CDあるいはTAPE）は消灯します。
4. 連続再生モードを解除したいときは、もう一度CD-TAPE CONT PLAYボタンを押してください。
再生はそのまま続きますが、TAPE CDインジケータが消灯します。

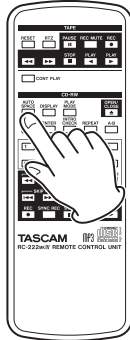
メモ

工場出荷設定では、CDとカセットテープの音はそれぞれ異なるLINE OUTPUTS 1 (CD) / 2 (TAPE/AUTO) 端子から出力されますが、メニュー設定のOUT 2項目をAUTOに設定することにより、LINE OUTPUTS 2 (TAPE/AUTO) 端子にカセットテープとCDの再生音を出力させることができます（同時に再生した場合はカセットテープの音が優先になります）。

オートスペース再生機能

トラック間に約4秒間のスペース（無音部分）を入れることができます。本機能を使ってCDからカセットテープにダビングすると、カセットテープ再生時の選曲（頭出し）が行いやすくなります。

1. リモコンのAUTO SPACEボタンを押します。



ディスプレイの **SPACE** インジケーターが点灯します。

2. オートスペース再生機能を解除するには、もう一度リモコンの **AUTO SPACE** ボタンを押します。
再生を停止した場合もオートスペース再生機能は解除されません。

CDピッチコントロール再生

本機では、ピッチ（再生の速さ）を変えて再生することができます。

1. **MENU**ボタンを押して、**CD PITCH** > **XXX** を表示させます。
2. **MULTI DIAL** (◀▶) またはリモコンの**SKIP** (◀▶) ボタンを使って、CDピッチコントロールの **ON** または **OFF** を切り換えます。
3. **MENU**ボタンを押して、**PITCH** > **X.X%** を表示させます。
4. **MULTI DIAL** (◀▶) またはリモコンの**SKIP** (◀▶) ボタンを使って、CDピッチコントロール値を設定します。
設定範囲は、-12.5% ~ +12.5%です。

メモ

- CDピッチコントロール値は、**CD PITCH** > **XXX** 項目が **OFF** の状態でも設定可能です。
- **CD PITCH** > **XXX** 表示中に**PLAY**ボタン、**PAUSE**ボタン、**SKIP**(◀▶) ボタンなどの操作を行った場合は、メニュー表示を優先して表示します。
- CDピッチコントロール再生がオンのとき、CDを停止状態から再生または一時停止させると、ディスプレイに **Pitch ON** を数秒間表示します（ピッチコントロールとキーコントロールが共にオンのときは、**Pitch/Key ON** と表示されます）。

注意

- MP3ファイルでは、CDピッチコントロール再生は行えません。
- CD-R / CD-RWへの書き込み中、CDピッチコントロールのメニュー操作は行えますが、CDピッチコントロール機能は働きません。

CDキーコントロール再生

本機では、キー（音程）を変えて再生することができます。

1. **MENU**ボタンを押して、**CD KEY** > **XXX** を表示させます。
2. **MULTI DIAL** (◀▶) またはリモコンの**SKIP** (◀▶) ボタンを使って、CDキーコントロール機能の **ON** または **OFF** を切り換えます。
3. **MENU**ボタンを押して、**KEY LEVEL** > **XXX** を表示させます。
4. **MULTI DIAL** (◀▶) またはリモコンの**SKIP** (◀▶) ボタンを使って、CDキーコントロール値を設定します。
選択できる設定値は、0(音程の変化なし)、b1 ~ b6、#1 ~ #6です。
この状態でCDを再生すると、スピードは変わらず、キー（音程）だけが変化して再生されます。

ヒント

CDキーコントロール機能がオンのときにCDピッチコントロール機能を使うと、再生スピードが変わるだけで音程は変わりません（再生される音程は、**KEY LEVEL** > **XXX** 項目で設定された音程に固定されます）。
したがって **KEY LEVEL** > **XXX** を **0** に設定してCDキーコントロール機能をオンにしておくと、CDピッチコントロールを使って音程を変えずに再生スピードだけを変えることができます。

メモ

- CDキーコントロール値は、**CD KEY** > **XXX** 項目が **OFF** の状態でも設定可能です。
- **KEY LEVEL** > **XXX** 表示中に**PLAY**ボタン、**PAUSE**ボタン、**SKIP**ボタンなどの操作を行った場合、メニュー表示を優先して表示します。
- CDキーコントロール再生がオンのとき、CDを停止状態から再生または一時停止させると、ディスプレイに **Key ON** を数秒間表示します（ピッチコントロールとCDキーコントロール機能が共にオンのときは、**Pitch/Key ON** と表示されます）。

注意

- MP3ファイルでは、キーコントロール再生は行えません。
- CD-R / CD-RWへの書き込み中、CDキーコントロール機能のメニュー操作は行えますが、CDキーコントロール機能は働きません。
- CDキーコントロール機能を使用しているときに再生音が振るえているように聞こえることがありますが、これはCDの再生音を特殊処理しているために発生するもので、故障ではありません。

MP3ファイルの再生

ここでは、MP3ファイルが収録されたディスク（MP3ディスク）を再生する方法を説明します。

MP3ディスクを再生するには、ディスク内の全てのMP3ファイルを再生対象にする方法と、特定のディレクトリ（フォルダー）に含まれるMP3ファイルのみを再生対象にする方法（ディレクトリモード）があります。

メモ

- 本機ではISO9660レベル1、レベル2、またはJolietに準拠したフォーマットで記録されたMP3ファイルを再生することができます。また、マルチセッションで記録されたディスクも再生することが可能です。
- MP3ファイル数とディレクトリ数には、以下のような制限があります。

最大ディレクトリ数	: 255
最大階層数	: 8
最大MP3ファイル数	: 999
MP3ファイル拡張子名	: mp3
- MP3のトラック情報について
本機では、ファイル名・MP3のTAG情報（曲名やアーティスト名）を表示できません。
- MP3ディスクの場合の時間表示モードは、ELAPSED（トラック経過時間）のみです。

注意

44.1kHz以外のサンプリングレートで変換されたMP3ファイルは、正常に再生できません。推奨フォーマットは、サンプリングレート44.1kHz、ビットレート128kbps以上です。

全てのMP3ファイルを再生する

本機では、MP3ディスクを通常のディスクと同じように再生できます。

1. MP3ファイルが収録されたディスクをセットします。
ディスクの読み込みが完了すると、MP3ディスクの総トラック数が表示されます。総再生時間は表示されません。

メモ

- MP3ファイルが保存されたディスクでは、それぞれのMP3ファイルが「トラック」として扱われます。
- MP3ディスク内部が複数のディレクトリ（階層構造）に分かれている場合でも、子ディレクトリや孫ディレクトリにある全てのMP3ファイルが読み出されます。
- トラック番号は、MP3ファイルがディスクに書き込まれた順番で割り当てられます。
パソコンでMP3ディスクを作成する場合は、一般的にはアルファベット順で書き込まれますので、その順番で番号が付けられます。
複数のディレクトリ内にファイルがある場合は、まずディレクトリ内でアルファベット順に並び替えられ、アルファベット順に番号が付けられます。
ディレクトリ階層が複数段ある場合は、上位の階層から順番に番号が付いていきます。
たとえば、次ページの図のような構造で全てのディレクトリにファイルがある場合は、A→D→B→Cの順番に番号が付きます。
すでにファイルを書き込んだディスクに追記（マルチセッション記録）した場合には、追記前のファイルに番号を付けた後に

追記したファイルに番号を付けますので、MP3ディスクの作成方法によってはパソコン上で表示されるファイル格納状況と、本機でのトラック番号の割り当て順序が一致しない場合があります。

2. 再生を始めるには、PLAYボタンを押します。
MP3が再生されます。

メモ

- 選曲は、通常のディスクを操作するときと同じように行えます。
- プログラム再生、リピート再生（A-Bリピート再生を除く）などは、通常のディスクと同じように行えます。

注意

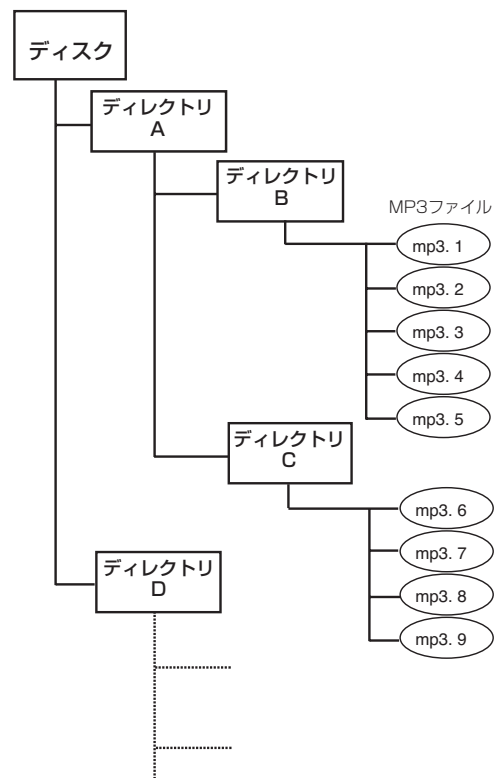
MP3ディスクでは、トラックのサーチが行えません。

ディレクトリを指定して再生する

MP3ディスク内部のディレクトリ単位でMP3ファイルの再生を行うディレクトリモードについて説明します。

ディレクトリ再生について

ディレクトリとは、CDメディアやハードディスク上の階層のことで、フォルダーと呼ばれることもあります。
ディレクトリモードをオンにすると、選択されたディレクトリ内のファイルのみが操作対象になり、プログラム再生、リピート再生なども全て同じディレクトリ内で行われます。
ディレクトリモードがオフのときは、ディレクトリ構造が無視され、ディスクに収録されている全てのMP3ファイルが再生対象になります。



[ディレクトリ構成の例]

注意

ディレクトリモードをオンにすると、ルートディレクトリ（下図のディレクトリAやディレクトリDがある、最上段の階層）にあるMP3ファイルは再生の対象外となります。

第5章 MP3ファイルの再生

ディレクトリ再生の設定

ディレクトリモードのオン/オフを切り換える方法と、ディレクトリモードの操作について説明します。

1. MENUボタンを押して、MP3 DIR > XXX 項目を表示させます。
2. MULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) を回して、ディレクトリモードのオン/オフを切り換えます。
3. MULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) を押して、メニューを終了します。
4. 操作対象となるディレクトリを選ぶには、停止中にMULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) (またはリモコンのSKIP (◀◀ / ▶▶) ボタン) を操作します。
ディスプレイに MP3 DIR XXX (ディレクトリ番号を選択可能) が表示されます。
操作を止めてしばらくすると、元の表示に戻ります。このとき最後に表示されていたディレクトリが、操作対象になります。

メモ

MP3ファイルが存在しないディレクトリも操作対象として表示されます。たとえば、図のディレクトリAはDIR001として選択できますが、中にファイルが存在しないので総トラック表示は 0Tr となります。

5. フロントパネル (またはリモコン) のPLAYボタンを押します。
選択したディレクトリ内で再生が始まります。
プログラム再生、リピート再生なども、全て同一ディレクトリ内で行われます。

メモ

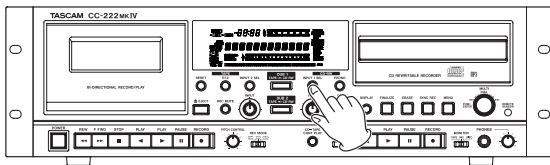
- 再生中はMULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) (またはリモコンのSKIP (◀◀ / ▶▶) ボタン) を使って、トラック (MP3ファイル) の選択が行えます。
- トラック スキップ操作中は、ディレクトリ番号と目標トラック番号を表示します (XXXAL XXXTr)。
AL はアルバムの意味です。ディスプレイ表示上は、ディレクトリを示すために使用しています。

録音の前に

- CDの規格により99トラック(曲)までしか録音できません。また、4秒以下の曲は録音できません。
- 録音を始めてから4秒以内に**STOP**ボタンまたは**PAUSE**ボタンを押した場合は、4秒経ってから停止します。その間は、無音録音状態になります。
- 録音の途中でディスクの録音可能時間が0になった場合は、フェードアウトした後、Disc Full を表示して停止します。
- 途中まで録音されたディスクをセットした場合は、最終録音部分から続いて録音されます。
- ファイナライズ済みのCD-RWにさらに録音したいときは、一度アンファイナライズ(ファイナライズの取り消し)します。(→ 25ページ「ファイナライズ」)
- シンク録音機能やオートトラック機能を使う場合、本機はサウンドレベルで設定したレベルにしたがって録音を開始し、曲を区切ります。このため、冒頭や曲間に無音部分があるソースを録音すると、1曲当たりの長さ(再生時間)が入力したソースと一致しないことがあります。

入力信号の選択

INPUT 1 SELボタンを押して、入力信号(録音ソース)を選択します。



OPTICAL

DIGITAL OPTICAL INPUT端子(光デジタル)の入力信号。
ディスプレイにOPTICALインジケーターが点灯します。

COAXIAL

DIGITAL COAXIAL INPUT端子(同軸デジタル)の入力信号。
ディスプレイにCOAXIALインジケーターが点灯します。

LINE 1

LINE INPUTS 1 (CD) 端子(RCAアナログ)の入力信号。
ディスプレイにLINE 1インジケーターが点灯します。

PHONO

RIAA PHONO INPUT (L / R) 端子(RCAアナログ)の入力信号。
ディスプレイにPHONOインジケーターが点灯します。

TAPE

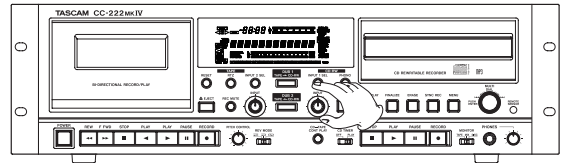
本機で再生したカセットテープの音声信号。
ディスプレイにTAPEインジケーターが点灯します。

メモ

- フォノ入力の操作については、26ページの「アナログレコードをCDにダビング」をご覧ください。
- カセットテープに録音する場合、ダビング機能を使うと便利です。その場合の操作については、33ページ「カセットテープをCDにダビング」をご覧ください。

入力信号の調整

アナログ信号は、CD部のINPUTつまみで調整します。



デジタル入力信号のレベルを調整する場合は、メニューのVOLUME項目(デジタルボリューム)を使います。この機能はアナログ入力に対しても有効ですが、通常はデジタルボリュームを0に固定しておき、アナログボリュームで調整することをおすすめします。

デジタルボリュームを使ったレベル調整

1. RECORDボタンを押して、録音待機状態にします。
2. MENUボタンを押して、VOLUME > XXXdB を表示します。
3. MULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) またはリモコンのSKIP (◀◀ / ▶▶) ボタンを使って、レベルを調整します。調整範囲は、-60dB ~ +18dBです。---dB で信号を完全にカットします。

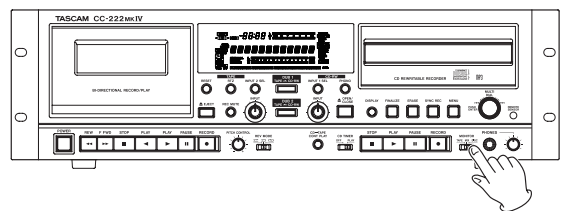
注意

INPUT 1がデジタル入力(OPTICAL / COAXIAL)を選択している場合と、アナログ入力(LINE 1 / PHONO / TAPE)を選択している場合とでは異なる値を設定することができます。VOLUME項目を設定した後に入力を切り換えた場合は、注意してください。

入力信号のモニター

ディスク未セット時にCD部のRECORDボタン(リモコンの場合はRECボタン)を押すとモニターモードになり、選択中の入力信号がLINE OUTPUTS 1 (CD) 端子から出力されます。メニューでOUT 2項目をAUTOに設定した場合は、カセットの音/再生中以外は、LINE OUTPUTS 2 (TAPE/AUTO) 端子からも出力されます。

なお、MONITORスイッチを「MIX」または「DISC」に設定するとPHONES端子からも出力されます。



ディスプレイ上のレベルメーターは、入力レベルを表示します。

注意

再生ディスクがセットされていると、モニターモードになりません。

サンプリングレートコンバーター

本機はCD-DAフォーマット（サンプリング周波数44.1kHz）で録音します。また、本機はサンプリングレートコンバーター（SRC）機能により、44.1kHz以外のデジタルソース（32kHz～48kHz）を録音することができます。

44.1kHzのデジタルソース（CDなど）をディスクにそのまま録音する場合は、SRCをオフにすることをおすすめいたします。

1. MENUボタンを押して、SRC > XXX を表示します。
 2. MULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) またはリモコンのSKIP (◀◀ / ▶▶) ボタンを使って、ON または OFF を選択します。
- SRCがオフの場合は、44.1kHz以外のデジタル入力信号は録音できません。録音しようとすると、エラーメッセージ Not F_s44.1k!（サンプリング周波数が44.1kHzではありません!）が表示されます。
 - SRCをオフにしてもデジタルボリュームは有効です。デジタル入力された信号とデジタル的に全く同じ信号を録音したい場合は、VOLUME 項目を 0dB に設定してください。

CD-R/CD-RWの基本的な録音

1. POWERボタンを押して、電源を入れます。
 2. OPEN/CLOSEボタンを押して、ディスクトレイを開けます。
 3. ディスクのレーベル面を上にして、録音可能なCD-RあるいはCD-RWをトレイに載せます。
 4. OPEN/CLOSEボタンを押して、ディスクトレイを閉めます。
 5. INPUT 1 SELボタンを押して、録音ソースを選びます。
 6. トラック番号の付け方を選びます。（→ 27ページ「オートトラック機能（自動トラック番号）」）
 7. RECORDボタンを押して、録音待機状態にします。
【REC】インジケータと II インジケータが点灯し、自動的にOPCを行った後、ディスプレイに Rec Standby を表示して録音待機状態になります。
- デジタルソースを選択した場合、ソース機器の電源が切れている、または接続が正しくないとエラーメッセージ D-IN UNLOCK!（デジタル入力信号がロックしていません!）が表示されます。

メモ

OPC（Optimum Power Control）とは、録音するために適切なレーザーパワーを調整することです。（→ 8ページ「OPCについて」）

8. 録音ソースの入力レベルを調整します。（→ 23ページ「入力信号の調整」）
レベルメーターの OVER が点灯しないように調整してください。OVER が点灯するとデジタルノイズが発生します。アナログ録音と異なり、レベルメーターの 0 より上に余裕はありません。

メモ

CDなどを録音する場合は、原則としてメニューの VOLUME 項目を 0dB にすることをおすすめします。デジタルソースのダイナミックレンジをクリップなく録音できます。

9. PLAYボタンを押して、録音を始めます。

- 録音開始位置を探す必要はありません。自動的に現在の最終曲を検出し、その次から録音を始めます。

メモ

一般のCDプレーヤーで再生できるようにするには、ファイナライズをします。詳しくは、25ページ「ファイナライズ」をご覧ください。

録音を止めるには

STOPボタンを押します。

ディスプレイの【REC】が点滅し、PMA Writing*（PMA情報を書き込み中）を表示してディスクに録音内容を記録します。

※ PMA=Program Memory Area

録音を一時停止するには

PAUSEボタンを押します。

もう一度PLAYボタンまたはPAUSEボタンを押すと、再び録音が始まります。

このとき、トラック番号が新しくなります（1つ繰り上がります）。

ディスクを取り出すには

録音を停止してから、OPEN/CLOSEボタンを押します。

注意

- PMA Writing 表示中は、ディスクに録音内容を記録しています。このためボタン操作は受け付けません。
- PMA Writing 表示中に本機を揺らしたり電源を切ったりしないでください。録音内容を正しく記録できなくなります。

メモ

オーディオCDの規格により、1枚のディスクの最大トラック数は99です。また、各トラックの長さは4秒以上でなければなりません。録音開始後、4秒経過する前に録音を停止しようとしても、4秒経過してから停止します。

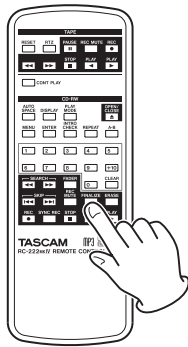
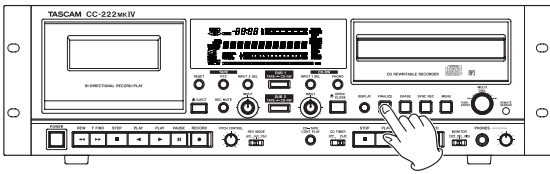
ファイナライズ

TOCを記録することをファイナライズといいます。
本機で録音したディスクは本機では再生できますが、最終的なTOCをディスクに記録するまで、一般のCDプレーヤーでは再生できません。
ファイナライズしたCD-R / CD-RWには、新たに録音できません。

メモ

CD-RWの場合は、アンファイナライズ（ファイナライズの取り消し）すれば再び録音することができます。

- ディスクを正しくセットします。
1. 停止中に、FINALIZEボタンを押します。



ディスプレイに **Finalize OK?** を表示します。
中止したいときは、**STOP**ボタンを押します。

2. **MULTI DIAL** (◀◀ / ▶▶) またはリモコンの**ENTER**ボタンを押すと、ファイナライズが始まります。
ディスプレイに **TOC X:XX** を表示し、**[REC]** インジケータが点滅を始めます。
ファイナライズが終了すると、**Complete** を表示します。

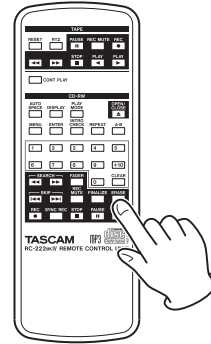
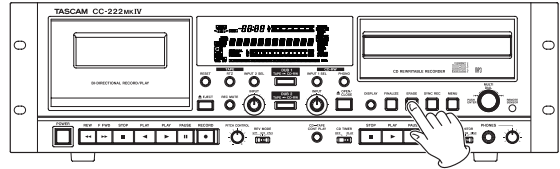
注意

- ファイナライズ中に電源を切らないでください。
録音内容が消えるばかりではなく、ディスクが使えなくなる恐れがあります。
- ファイナライズ中は、ボタン操作を受け付けません。

アンファイナライズ

アンファイナライズは、ファイナライズの取り消し作業のことです。
アンファイナライズはCD-RWのみ可能です。

- ファイナライズ済みのディスクを正しくセットします。
1. 停止中に、**ERASE**ボタンを押します。



2. **MULTI DIAL** (◀◀ / ▶▶) またはリモコンの**SKIP** (◀◀ / ▶▶) ボタンを使って、ディスプレイに **Unfinalize OK?** を表示させます。
中止したいときは、**STOP**ボタンを押します。
3. **MULTI DIAL** (◀◀ / ▶▶) またはリモコンの**ENTER**ボタンを押すと、アンファイナライズ（ファイナライズの取り消し）が始まります。
ディスプレイに **ERASE X:XX** を表示し、**NO TOC** インジケータが点滅を始めます。
アンファイナライズ（ファイナライズの取り消し）が終了すると、**Complete** を表示します。

時間表示モード

録音中もしくは録音待機状態で、**DISPLAY**ボタンを押して時間表示モードを切り換えます。

- 表示なし : 現在のトラックの録音済み時間を表示します。
- TOTAL : ディスクの録音済み時間を表示します。
- REMAIN : ディスクに録音可能な残り時間を表示します。
- TOTAL REMAIN : ディスクに録音可能な残り時間を表示します。

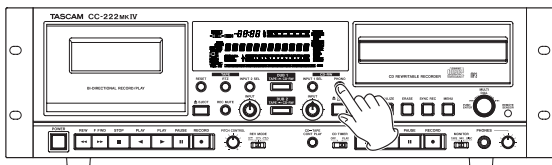
メモ

録音中および録音待機状態では、REMAIN と TOTAL REMAIN は同じ内容となります。

アナログレコードをCDにダビング

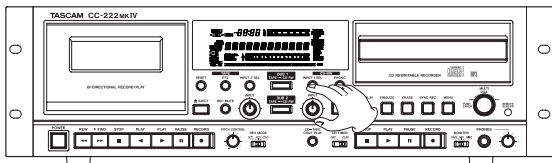
外部のアナログレコードプレーヤー（対応カートリッジ：MMタイプ）を本機のRIAA PHONO INPUT端子に接続することにより、アナログレコードをCDにダビングすることができます。

1. 録音可能なディスクをセットします。
2. MENUボタンを押して、PHONO > XXXX を表示します。
3. MULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) またはリモコンのSKIP (◀◀ / ▶▶) ボタンを使って、PHONO > DISC を選択します。
4. MULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) またはリモコンのENTERボタンを押します。
5. PHONOボタンを押します。



ディスプレイに INPUT 1 インジケータと PHONO インジケータが点灯し、INPUT 1の入力がフォノ入力であることを示します。
CD部は、録音待機状態になります。

6. 必要に応じて、CD部のINPUTつまみで録音レベルを調節します。



7. レコードを再生すると同時に、CD部のPLAYボタンを押して録音を開始します。

録音を止めるには

STOPボタンを押します。

録音を止めると、ディスプレイの PHONO インジケータが消灯します。

メモ

- レコードをダビングする場合は、27ページ「オートトラック機能（自動トラック番号）」をオフにすることをおすすめします。レコードは、その特性上スクラッチノイズなどが多いため、適切にオートトラック機能が動かないことがあります。
- PHONOボタンを使った録音では、手動でトラック番号を更新できません。手動でトラック番号を更新したい場合は、24ページ「CD-R/CD-RWの基本的な録音」で行ってください。
- PHONOソースを録音中は、STOPボタン以外のボタン操作を受け付けません。
- CD側への録音のみ、フォノ入力からの録音を手動で行うことができます。操作方法は、INPUT 1 SELボタンで PHONO を選択した後、基本的な録音方法で録音します。（→ 24ページ「CD-R/CD-RWの基本的な録音」）

サウンドレベルの設定

サウンドレベルの設定にしたがって、カセットテープからCDへのダビング、シンク録音、オートトラック機能が働きます。

1. MENUボタンを押して、S_LVL > XXX を表示します。
2. MULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) またはリモコンのSKIP (◀◀ / ▶▶) ボタンを使って、値を選択します。

選択肢

デジタル入力時：-72dB、-66dB、-60dB、-54dB、
-48dB、-42dB、-36dB、-30dB、
-24dB
アナログ入力時：-54dB、-48dB、-42dB、-36dB、
-30dB、-24dB

メモ

カセットテープあるいはアナログレコードから録音する場合は、サウンドレベルを -30dB、もしくは -24dB に設定することをおすすめします。
それよりも小さな値に設定すると、ノイズによりオートトラック機能の誤検出が発生しやすくなります。

シンク録音

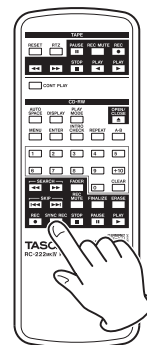
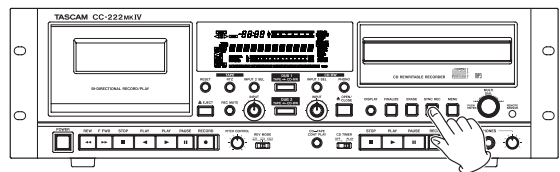
シンク録音とは、ソースの始まりを検出して自動的に録音が始まり、終わりを検出して自動的に録音が終わる録音です。

ソースの始まりや終わりの検出の基準になるサウンドレベルは、メニューを使って設定することができます。（→ 26ページ「サウンドレベルの設定」）

メモ

- レコードをダビングする場合は、シンク録音機能をオフにすることをおすすめします。レコードは、その特性上スクラッチノイズなどが多いため、シンク録音機能が適切に動かないことがあります。
- シンク録音機能は、サウンドレベルのみで行います。

24ページ「CD-R/CD-RWの基本的な録音」の手順9. でPLAYボタンを押すかわりに、SYNC RECボタンを押すとシンク録音の待機状態になります。

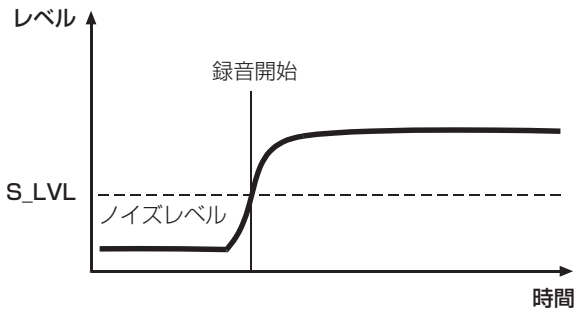


このとき、ディスプレイに SYNC ON を表示し、[SYNC] インジケータが点灯します。

シンク録音の待機状態で以下の信号を検出すると、自動的に録音を

開始します。また、シンク録音中に5秒間無音を検出すると、自動的に録音待機状態になります。

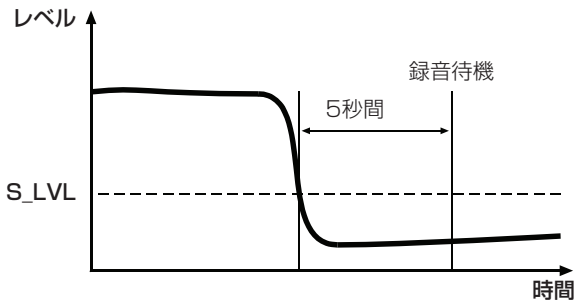
無音状態が1秒以上続いた後、設定したサウンドレベル以上の音が入ってきたとき：



● 無音とは

この取扱説明書では、サウンドレベル以下の音を無音と呼びます。

5秒間無音が続いたとき：

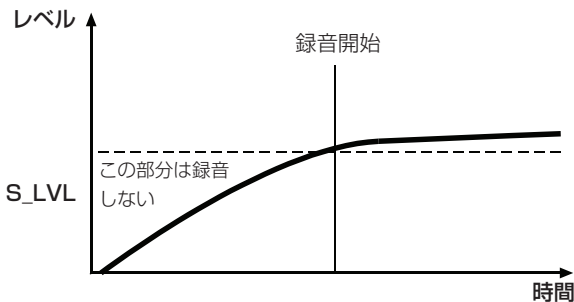


メモ

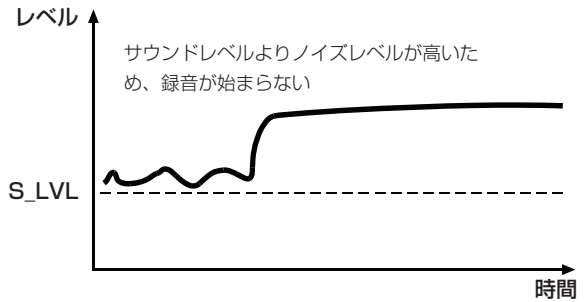
SYNC RECボタンを押すと、SYNC OFF を表示してシンク録音機能がオフになります。録音中にオン/オフを切り換えることもできます。

注意

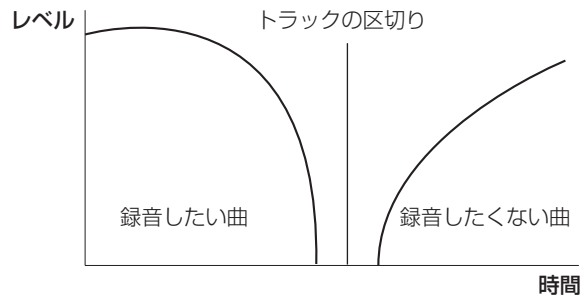
- サウンドレベルを高めに設定すると、小さい音から始まる曲の始めの部分が欠けてしまうことがあります。



- 反対に、サウンドレベルを低めに設定すると、アナログソースなどのノイズレベルがサウンドレベルより高くなってしまいます。この場合は、シンク録音機能が働きません（録音が始まりません）。



応用例：



通常のシンク録音では、曲が終わってから5秒の無音録音部分ができますが、28ページ「録音トラック数の指定」とオートトラック機能の[D]設定を組み合わせることで、録音したい曲が終わると同時に録音を終了することができます。この場合、あらかじめ録音ソース側の録音したい最終曲の後に録音不要な曲を作っておきます。

オートトラック機能（自動トラック番号）

メニューのA_TRK項目の設定にしたがって、録音中自動的にトラック番号を付けることができます。

メモ

レコードをダビングする場合は、オートトラック機能をオフにすることをおすすめします。レコードは、その特性上スクラッチノイズなどが多いため、オートトラック機能が適切に働かないことがあります。機能

オートトラック機能の設定

1. MENUボタンを押して、A_TRK > XXX を表示します。
2. MULTI DIAL (◀▶) またはリモコンのSKIP (◀▶) ボタンを使って、次の中から選択します。

OFF

オートトラック機能は、働きません。

LEVEL

オートトラック機能の動作レベル以下の信号が2秒以上続いた後で、信号が動作レベルを超えるとトラック番号が更新されます。

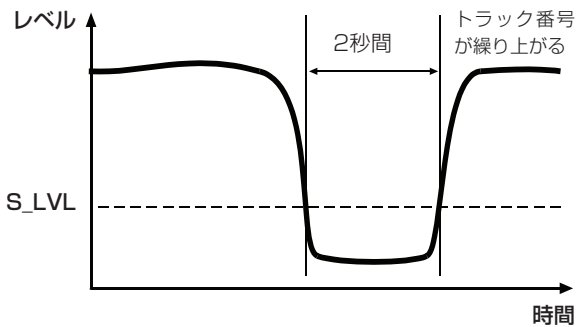
オートトラック機能の動作レベルは、メニュー内のS_LVL項目を使って設定します。

設定範囲は、-24dB ~ -72dB (6dBステップ) です。

A_TRK=Level時、ディスプレイのA_TRACKインジケータが点灯します。

第6章 CD-R/RWの録音

トラック番号が自動的に繰り上がるのは、以下の場合です。



DD

デジタルソース (CD、DAT、MD) を録音するときに、ソース側のトラックの区切りを検出し、トラック番号が更新されます。

A_TRK > DD 時、ディスプレイの A_TRACK インジケーターが点灯します。ただし、DD が選ばれているときでも、アナログソース録音時または上記以外のデジタルソース録音時には、Level 設定の場合と同じように、入力レベルに応じてトラック番号が更新されます。

TIME

録音開始後、あらかじめ設定した時間が経過した後で、トラック番号が更新されます。

設定時間は、メニュー内の A_TIME 項目を使って設定します。

設定時間は、1 ~ 10分まで1分単位で設定できます。

A_TRK > TIME 時、録音中または録音待機中は A_TRACK インジケーターが点滅します。

マニュアルでトラック番号を付ける

オートトラック機能 (A_TRK > XXX) の設定に関わらず、録音中に RECORD ボタンを押すと新しくトラック番号を付けることができます。

メモ

PHONO ボタンを使った録音では、手動でトラック番号を更新できません。手動でトラック番号を更新したい場合は、24 ページ「CD-R/CD-RWの基本的な録音」で行ってください。

録音トラック数の指定

録音するトラックの数を、あらかじめ指定しておくことができます。



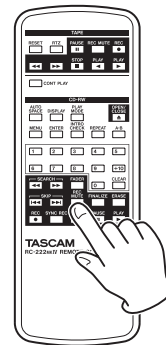
録音中または録音待機中に、MULTI DIAL (◀ / ▶) またはリモコンの SKIP (◀ / ▶) ボタンを押すと、ディスプレイに録音するトラックの数を表示します。

メモ

合計99トラックまで指定できます。

レックミュート

4秒間の無音録音部分を簡単に作ることができます。録音中にリモコンの REC MUTE ボタンを押します。



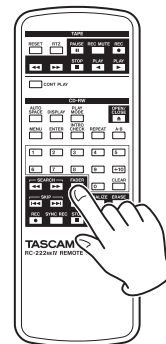
無音録音が始まり、約4秒後に録音待機状態になります。

- レックミュート機能は、リモコンからのみ操作できます。

フェードイン/アウト

録音中に、入力信号を無音状態から設定したレベルまで上げる (フェードイン)、または現在のレベルから無音状態まで下げる (フェードアウト) ことができます。また、フェードイン/アウトの時間をそれぞれ個別に設定することができます。

1. MENU ボタンを押して、FADE IN (OUT) > XXX を表示します。
2. MULTI DIAL (◀ / ▶) またはリモコンの SKIP (◀ / ▶) ボタンを押して、値を選択します。フェードイン/アウトと共に選択できる値は、1秒 ~ 30秒 (1秒単位) です。
3. フェードイン/アウトするときは、録音一時停止または録音状態で、リモコンの FADER ボタンを押します。



フェードイン中は FADE IN、フェードアウト中は FADEOUT をディスプレイに表示します。

メモ

フェードイン中のフェードアウト、フェードアウト中のフェードインも可能です。

コピー IDの設定

デジタルコピーに対するコピー IDを設定することができます。

1. MENUボタンを押して、COPY ID > XXX を表示します。
2. MULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) またはリモコンのSKIP (◀◀ / ▶▶) ボタンを使って、IDを設定します。

FREE : 録音したディスクにコピー制限はありません。
 PROH * : 録音したディスクはデジタルコピーできません。
 1GEN ** : 録音したディスクから1世代のみデジタルコピーできます。

* PROH=PROHIBIT
 ** GEN=GENERATION

メモ

コピー IDはディスク単位だけでなく、トラック単位でも設定できます。たとえば、コピー IDを FREE に設定した状態でトラック1を録音した後、停止状態にてコピー IDを PROH に変更してからトラック2を録音すると、トラック1とトラック2は異なるコピー IDが書き込まれます。

消去

CD-RWの場合、録音済みのトラックを消去することができます。ディスク全体、または指定したトラックから最後のトラックまでが消去できます。

- CD-RWを正しくセットします。
1. 停止中に、ERASEボタンを押します。
 2. MULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) またはリモコンのSKIP (◀◀ / ▶▶) ボタンを使って、ディスプレイに以下を表示します。
 ディスク全体を消去する場合は：
 → ERASE DISC ?
 指定したトラックから最後のトラックまでを消去する場合は：
 → ERASE XX-XX ?
 中止したいときは、STOPボタンを押します。
 3. MULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) またはリモコンのENTERボタンを押すと、ディスプレイに ERASE X:XX を表示して、消去が始まります。
 消去が終了すると、Complete を表示します。

注意

- 消去中に電源を切らないでください。録音内容が消えるばかりではなく、ディスクが使えなくなる恐れがあります。
- CD-Rは、消去できません。
- 消去中は、ボタン操作を受け付けません。
- 再生モードがシングル再生モード/ランダム再生モード/プログラム再生モードの時は、トラック消去はできません。リモコンのPLAY MODEボタンを使って通常の再生モード(Continue) にしてから、消去してください。

ディスクリフレッシュ

ファイナライズ中に停電があったディスクやコンピューターで使用したディスクは、本機で認識することができない場合があります。このような場合は、ディスクをリフレッシュします。

注意

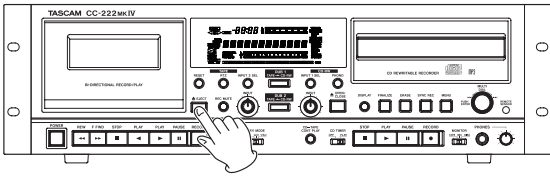
ディスクリフレッシュは、ディスク全体を書き換えます。全ての記録内容が消去されますので充分ご注意ください。通常の状態のCD-RWでは、ディスクリフレッシュを行っても録品質が向上するということはありませんので、この機能を使用する必要はありません。

1. 停止中に、ERASEボタンを押します。
2. MULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) またはリモコンのSKIP (◀◀ / ▶▶) ボタンを使って、ディスプレイに DISC REFRESH を表示させます。
3. MULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) またはリモコンのENTERボタンを押すと、ディスプレイに ERASE X:XX を表示して、ディスクリフレッシュが始まります。
 ディスクリフレッシュが終了すると、Complete を表示します。

第7章 カセットテープの録音／再生

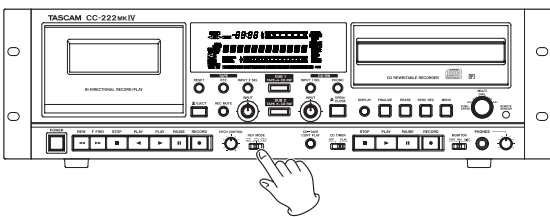
カセットテープの基本的な再生

1. POWERスイッチを押して、電源を入れます。
2. EJECTボタンを押してカセットホルダーを開き、カセットテープを装着します。



A面を手前にし、テープの見える方を下向きにしてカセットテープを入れ、ホルダーを手で押して閉めます。

3. リバースモードを選びます。
REV MODEスイッチを使って設定します。



- ↔ : A面とB面の往復再生 (最大連続5往復)
- ⇒ : A面からB面への両面再生 (1往復のみ)
- ⇐ : A面またはB面の片面再生

4. PLAYボタンを押します。
A面を再生する場合はPLAY [▶] ボタンを、B面を再生する場合はPLAY [◀] ボタンを押します。

再生を止めるには
STOPボタンを押します。

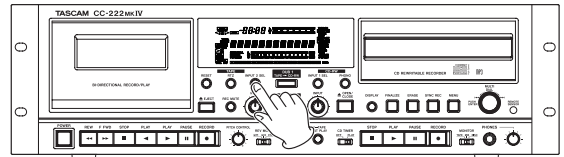
早送り／巻き戻しをするには
停止中または一時停止中にF FWDボタン／REWボタンを押します。

カセットテープとCDの連続再生

CD-TAPE CONT PLAYボタン (リモコンの場合はCONT PLAYボタン) を押してから、CD部またはカセット部のPLAYボタンを押すと、カセットテープとCDの連続再生を行うことができます。詳しくは、19ページ「CDとカセットテープの連続再生」をご覧ください。

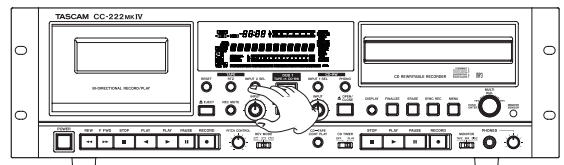
カセットテープの基本的な録音

1. 電源を入れ、カセットテープを挿入します。
カセットテープの誤消去防止用のつめが折れていないことを確認します。折れている場合は、セロハンテープなどでふさいでください。
2. INPUT 2 SELボタンを押して、録音ソース (LINE 2 または DISC) を選びます。
DISC を選択すると、本機のCD部の出力が録音ソースになります。
LINE 2 を選択すると、リアパネルのLINE INPUT 2 (TAPE) 端子の入力信号が録音ソースになります。



メモ

- RIAA PHONO INPUT端子の入力信号を録音することもできます。その場合の操作については、31ページ「アナログレコードをカセットテープにダビング」をご覧ください。
 - CD-R / CD-RWを録音する場合、ダビング機能を使うと便利です。その場合の操作については、33ページ「CDをカセットテープにダビング」をご覧ください。
3. リバースモードを選びます。
REV MODEスイッチを使って設定します。
 - ⇒ : A面からB面への両面録音
 - ⇐ : A面またはB面の片面録音
 4. カセット部のRECORDボタン (リモコンの場合はRECボタン) を押します。
録音待機状態になり、ディスプレイ上ではレベルメーターが入力レベルを表示し、[REC] インジケーターが点灯します。また、LINE OUTPUTS 2 (TAPE/AUTO) 端子から録音ソースの音が出力されます。なお、MONITORスイッチを「MIX」または「TAPE」に設定すると、PHONES端子からも出力されます。(→ 23ページ「入力信号のモニター」)
 5. 録音レベルを設定します。
録音ソースを再生し、レベルメーターを見ながら最適レベルになるように、カセット部のINPUTつまみを使って調節します。



一番レベルの高いときのレベルメーターの指示が、ノーマルテープ、ハイポジションテープでは、0dBぐらいになるように設定します。

- テープ走行方向を確認／選択します。
ディスプレイのリバース（逆方向）／フォワード（正方向）表示（◀／▶）が、現在のテープ走行方向を示しています。
逆の方向に録音したい場合は、録音方向の**PLAY**ボタンを押すとテープ走行方向が変わります。
- PLAY**ボタンまたは**PAUSE**ボタンを押して、録音を開始します。

録音を止めるには

STOPボタンを押します。

録音を一時停止するには

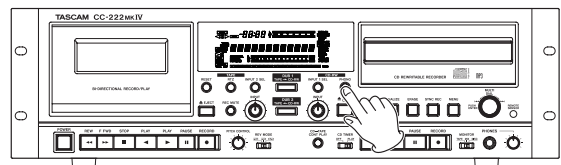
PAUSEボタンを押します。

この状態から録音を再開するには、**PAUSE**ボタンまたは**PLAY**ボタンを押します。

アナログレコードをカセットテープにダビング

外部のアナログレコードプレーヤー（対応カートリッジ：MMタイプ）を本機の**RIAA PHONO INPUT**端子に接続することにより、アナログレコードをカセットテープに録音することができます。

- 録音の準備をします。
カセットテープをセットし、リバースモードを設定します。
- MENU**ボタンを押して、**PHONO** > **XXXX**を表示します。
- MULTI DIAL** (◀◀ / ▶▶) またはリモコンの**SKIP** (◀◀ / ▶▶) ボタンを使って、**PHONO** > **TAPE** を選択します。
- MULTI DIAL** (◀◀ / ▶▶) またはリモコンの**ENTER**ボタンを押します。
- テープの途中から録音したい場合はその位置で**RECORD**ボタン（リモコンの場合は**REC**ボタン）を押して録音待機状態にします。
- PHONO**ボタンを押します。



ディスプレイに **PHONO** インジケーターが点灯します。

録音待機状態ではない場合、自動的にテープがA面の頭まで巻き戻され、リーダーテープ部分を選けるため約8秒送られた後、録音待機状態になります。

録音待機状態の場合は、そのままです。

- レコードを再生すると同時に、カセット部の**PLAY**ボタンまたは**PAUSE**ボタンを押して録音を開始します。

録音を止めるには

STOPボタンを押します。

録音を止めるとディスプレイの **PHONO** インジケーターが消灯します。

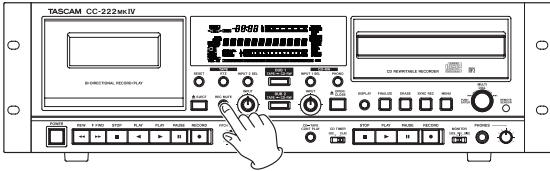
メモ

- PHONOソースを録音中は、**STOP**ボタン以外のボタン操作を受け付けません。
- ディスプレイに **PHONO** インジケーターが点灯時のみフォノ入力が録音ソースになり、消灯中は**INPUT 2 SEL**ボタンで選択した信号が録音ソースになります。

その他の機能

曲間に無音部分を作る（ミュート）

録音中にREC MUTEボタンを押すと、約4秒間の無信号録音が行われた後、一時停止します。

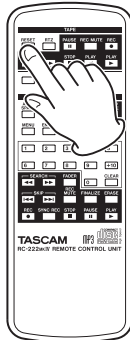
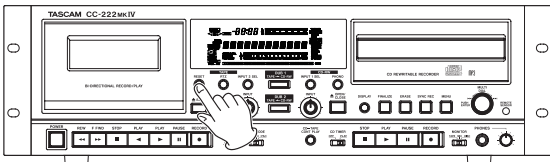


録音を再開するには、PLAYボタンまたはPAUSEボタンを押します。4秒以上の無音部分を作るには、REC MUTEボタンを4秒以上押し続けます。4秒以上押し続けて指を離れたときに、録音待機状態になります。

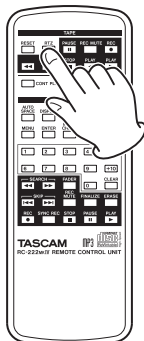
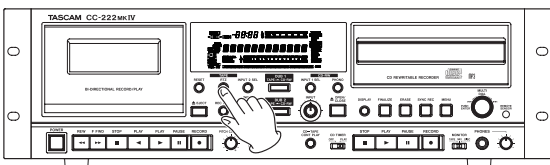
テープカウンター

テープが左から右に走行するとカウンター値が増え、右から左に走行するとカウンター値が減ります。

RESETボタンを押すと、カウンター値が 0000 にリセットされます。



RTZボタンを押すと、0000 位置にロケート（移動）します。



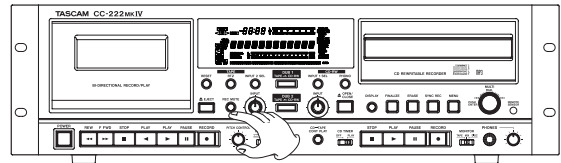
注意

カウンター値 9995 ~ 0004 の範囲内では、RTZ (Return-to-zero) 機能が動きません。

ピッチコントロール

本機のカセット部には、再生時に働くピッチコントロール機能が付いています。

PITCH CONTROLつまみがセンター位置（クリックがある位置）のときは、標準ピッチです。



右に回すとスピードが速くなり、左に回すと遅くなります（±10%の範囲）。

LINE OUTPUTS 2 (TAPE/AUTO) 端子の機能を変更する

LINE OUTPUTS 2 (TAPE/AUTO) 端子にテープの再生音だけを出力するか、カセットテープとCDの再生音を自動的に切り換えて出力するかを選択することができます。

1. MENUボタンを押して、OUT2 > XXX 項目を表示させます。
2. MULTI DIAL (◀▶) を回して、TAPE / AUTO を切り換えます。

TAPE：カセットテープの再生音を出力します。

AUTO：カセットテープとCDの再生音を自動的に切り換えて出力します。

カセットテープとCDを同時に再生した場合は、カセットテープの再生音が優先されます。

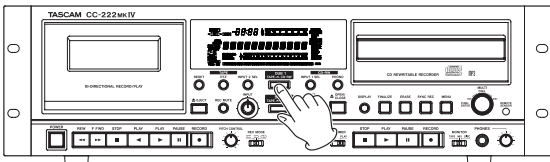
3. MULTI DIAL (◀▶) を押して、メニューを終了します。

本機にセットしたCDとカセットテープ間のダビング（CD→カセットテープ、カセットテープ→CD）を行うとき、DUB 1 [TAPE→CD-RW] ボタンまたはDUB 2 [TAPE←CD-RW] ボタンを使ったダビング機能を使うと便利です。

カセットテープをCDにダビング

簡単にダビングするには

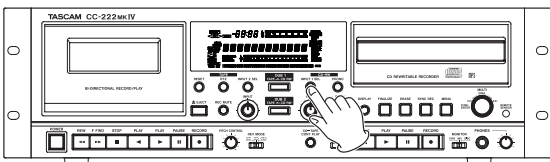
1. カセットテープをセットします。
最初に再生する面を表側にしてセットします。
リバースモードの設定も行います。
2. 録音可能なディスク（CD-R/RW）をセットします。
3. MENUボタンを押して、DUB > VOL 項目を表示します。
設定が THRU（初期設定）であることを確認します。
メニューの DUB > VOL 項目を THRU に設定すると、ダビング時にINPUTつまみをバイパスして、適正なレベルで録音します。（→ 34ページ「ダビング時にINPUTつまみを無効にする」）
THRU が選択されていない場合は、MULTI DIAL (◀◀ / ▶▶) またはリモコンのSKIP (◀◀ / ▶▶) ボタンを使って THRU に切り換えます。
4. DUB 1 [TAPE→CD-RW] ボタンを押します。



ダビングが始まります。
自動的にA面の頭までテープが巻き戻され、再生を始めます（DUB インジケータ点滅）。
ディスクの録音可能時間に達するか、あるいはテープが停止すると、カセットテープとCDの両方が停止してダビングが終了します。

録音レベルを調整してダビングするには

1. カセットテープをセットします。
最初に再生する面を表側にしてセットします。また、リバースモードの設定などを行います。
2. 録音可能なディスク（CD-R/RW）をセットします。
3. メニューの DUB > VOL 項目を ON に設定します。
4. INPUT 1 SELボタンを押して、ディスプレイに TAPE インジケータを点灯します。



カセットテープが録音ソースになります。

5. CDのRECORDボタンを押し、録音レベルを調節します。
（→ 24ページ「CD-R/CD-RWの基本的な録音」）
6. カセットテープとCDが停止状態であることを確認し、DUB 1 [TAPE→CD-RW] ボタンを押します。
自動的にA面の頭までテープが巻き戻され、再生を始めます（DUB インジケータ点滅）。
ディスクの録音可能時間に達するか、あるいはカセットテープ

が停止すると、カセットテープとCDの両方が停止してダビングが終了します。

ダビングを途中でやめるには

カセット部またはCD部のSTOPボタンを押します。

メモ

以下の場合にダビングが実行できません。

- 録音可能なディスクがセットされていない。
- カセットテープがセットされていない。
- カセットテープおよびCDが停止していない。

カセットテープの途中からCDにダビングするには

1. 希望のテープ位置にロケート（移動）してから、カセット部のPAUSEボタンを押します。
2. DUB 1 [TAPE→CD-RW] ボタンを押します。
カセットテープが再生を始めると同時にCDへの録音が始まります。

CDをカセットテープにダビング

本機にセットしたCDをワンタッチでカセットテープにダビングすることができます。

準備

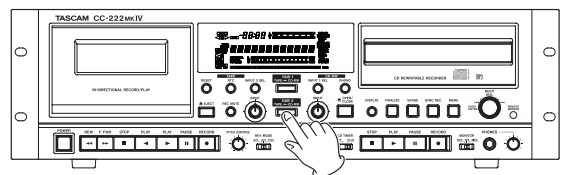
1. CDをセットします。
ダビングの際もCDのプログラム再生モード、ランダム再生モード、シングル再生モード、リピート再生（A-Bリピート以外）などの機能が使えますので、必要に応じて設定を行ってください。
特に設定をしなければ、1曲目から順にダビングを行います。
2. カセットテープをセットします。
3. 通常は、メニューの DUB > VOL 項目を THRU に設定します。これによりダビング時にINPUTつまみをバイパスします。（→ 34ページ「ダビング時にINPUTつまみを無効にする」）CDディスクによっては、THRUにした場合に音が小さかったり、歪んだりすることがあります。その場合には、手で録音レベルを調節してください。

メモ

- INPUT 1 SELボタンで録音ソースを選択する必要はありません。
- 録音レベルを手動で調節したい場合は、メニューの DUB > VOL 項目を ON に設定し、24ページ「CD-R/CD-RWの基本的な録音」で述べた方法で調節します。

カセットテープのA面の頭から録音するには

1. 停止中にDUB 2 [TAPE←CD-RW] ボタンを押します。



自動的にA面の頭までテープが巻き戻され、テープカウンターが0000にリセットされます。

CDは、最初の曲の頭で一時停止して待機します。
次に、カセットは約8秒の無信号録音を行った後（リーダーテープ部分を避けるため）、CDの演奏と同時に録音モードになり、ダビングを開始します（DUB インジケータ点灯）。

カセットテープの途中から録音するには

1. 録音したい位置までテープを送ります。
2. **RECORD**ボタン（リモコンの場合は**REC**ボタン）を押して、録音待機状態にします。
ディスプレイに【REC】インジケータと **II** インジケータが点灯します。
3. **DUB 2 [TAPE ← CD-RW]** ボタンを押します。
録音方向設定にしたがって、その位置からダビングを開始します。

メモ

- CDの再生が終わるか、もしくはテープが全て巻き取られて停止するとダビングが終了します。
- 両面録音モードでダビング中に曲の途中でA面からB面に反転した場合は、その曲は新たにB面の最初から録音されます。
- 両面録音モードでダビング中、走行方向が反転後8秒間は録音を行いません（カセットテープは録音中ですが、CDは再生を一時停止します）。

CDの途中からカセットテープにダビングするには

1. CDのトラックを選択して、CD部の**PAUSE**ボタンを押します。
2. カセットテープの途中から録音する場合は、その位置にロケート（移動）してから**RECORD**ボタン（リモコンの場合は**REC**ボタン）を押して、録音待機状態にします。
上記操作を行うとき、**MONITOR**スイッチを【MIX】に設定してヘッドホンでモニターすると、カセットテープとCDの両方の音が聞こえるので便利です。（→ 23ページ「入力信号のモニター」）
3. **DUB 2 [TAPE ← CD-RW]** ボタンを押します。
ダビングが始まります。ただし、カセットテープがA面の頭以外の位置で停止中の場合は、A面の頭にロケート（移動）してからダビングが始まります。

ダビングを途中でやめるには

カセット部またはCD部の**STOP**ボタンを押します。

メモ

以下の場合はダビングすることができません。

- ディスク（CD-R/RW）がセットされていない。
- カセットテープがセットされていない。あるいは誤消去防止用のつめが折れている。
- 何も録音されていないでディスク（CD-R/RW）がセットされている。
- カセットテープの状態が停止または録音待機状態になっていない。
- CDが停止や一時停止以外の状態になっている。

ダビング時にINPUTつまみを無効にする

本機のダビング機能を使ってCDとカセットテープ間のダビングを行う場合、**INPUT**つまみをバイパスして録音することができます。

1. **MENU**ボタンを押して、**DUB > VOL** 項目を表示します。
2. **MULTI DIAL (◀◀ / ▶▶)** またはリモコンの**SKIP (◀◀ / ▶▶)** ボタンを使って、**THRU** を選択します。
OFF を選択するとダビング時にも**INPUT**つまみが働きます。

メモ

- この設定は、**DUB 1 [TAPE → CD-RW]** ボタンまたは**DUB 2 [TAPE ← CD-RW]** ボタンを使ったCDとカセットテープ間のダビング時にのみ有効です。
- ダビング中にこのメニュー設定を見る（確認する）ことはできません。

エラーメッセージ

エラーメッセージが表示されたときは、**STOP**ボタンを押してから原因を取り除いてください。それでも改善しない場合は、ティアック修理センター（裏表紙に記載）にご相談ください。

メッセージ	内容
Cannot Rec !	録音できません。ディスクを交換してください。
Disc Error !	ディスクに何らかの問題があり本機では読み取ることができません（本機では対応していないフォーマットで作成されたディスクの場合もこのメッセージが表示されます）。 ディスクを交換してください。
Disc Full !!	トラック数または録音時間が限界に達したため録音を停止します。
Drive Error!	CD-RWドライブに問題があります。
D-IN UNLOCK!	デジタル音声信号が入力されていません。 出力側の機器の電源は、入っていますか？ デジタル出力の設定は、正しいですか？ ケーブルが抜けていませんか？ 接続したデジタル機器の電源がオフです。 電源を入れてください。
Cannot ERASE!	本機では消去できないフォーマットのCD-RWです。あるいは、通常の再生モード（Continue）以外でトラック消去しようとした場合にも表示されます。 通常の再生モード（Continue）にしてから消去してください。
Erase Error!	消去中にエラーが発生しました。
Not Fs44.1k!	入力されたデジタル音声信号のサンプリング周波数が44.1kHzではありません。 メニューでSRC ONを選択するとサンプリング周波数44.1kHz以外も録音できます。
PGM Full !	すでに99曲プログラムされています。
Rec Error!	録音中にエラーが発生しました。 ディスクに問題がある可能性がありますので、別のディスクで録音をやり直してください。
System Err!	システムエラーです。
Tray Error !	ディスクトレイに問題があります。

動作時のメッセージ

メッセージ	内容
Complete	ファイナライズまたは消去などが完了しました。
Now OPC	最適な状態で録音するために、使用ディスクの特性に合わせてキャリブレーションしています。 (OPC=Optimum Power Control)
Now REPAIR	ディスクを修復中です。
PMA Writing	録音した内容をディスクに記録しています。(PMA=Program Memory Area)
TOC Reading	TOC情報を読み取り中です。 (TOC=Table of Contents)
REC Standby	録音待機状態になりました。
Blank Disc	何も録音されていないディスクがセットされました。
NO DISC	ディスクが挿入されていないときに表示します。

第10章 仕様

CD部

対応ディスク

CD、CD-R、CD-R-DA、CD-RW、CD-RW-DA
(12cm、8cm、CD-RWはHigh Speedに対応)

再生ディスクフォーマット

CD-DA、CD-ROM ISO9660 LEVEL1/2Joliet format、
マルチセッション対応

再生ファイル形式

CD-DA : 44.1kHz、16bitステレオ
MP3 : 44.1kHz、64kbps ~ 320kbps、VBR

録音ファイル形式

CD-DA : 44.1kHz、16bitステレオ

周波数特性

20 ~ 20kHz ±0.8dB (再生時)
20 ~ 20kHz ±1.0dB (記録時)

S/N比

92dB (再生時)
88dB (記録時)

ダイナミックレンジ

92dB (再生時)
88dB (記録時)

歪率

0.006% (再生時)
0.01% (記録時)

チャンネルセパレーション

80dB (再生時 : 1kHz)
75dB (記録時 : 1kHz)

ワウフラッター

測定限界以下 (0.001%以下)

アナログ音声入力

LINE INPUTS 1 (CD) : RCAピン
基準入力レベル : -10dBV (FS : -16dB)
最大入力レベル : +6dBV
入力インピーダンス : 50kΩ

アナログ音声出力

LINE OUTPUTS 1 (CD) : RCAピン
基準出力レベル : -10dBV (FS : -16dB)
最大出力レベル : +6dBV
出力インピーダンス : 600Ω

デジタル音声入力

COAXIAL : RCAピン IEC60958-3
OPTICAL : 光デジタル音声端子(角型コネクタ)
IEC60958-3
入力可能サンプリング周波数 : 32kHz ~ 48kHz

デジタル音声出力

COAXIAL : RCAピン IEC60958-3
OPTICAL : 光デジタル音声端子(角型コネクタ)
IEC60958-3

カセット部

トラック方式

4トラック2チャンネルステレオ

ヘッド構成

録音/再生ヘッド x1 (回転リバース式)
消去ヘッド x1

使用テープ

C-46 ~ C-90タイプカセットテープ (メタルテープは再生のみ)

テープ速度

4.76cm/sec

モーター

DCサーボモーター : x1

ワウフラッター

0.25% (W.RMS)

周波数特性 (総合)

ノーマル : 30 ~ 13kHz ±4dB
ハイポジション : 30 ~ 15kHz ±4dB

S/N比

53dB (最大録音レベル入力時)

早巻時間

約160秒 (C - 60テープ)

入力

LINE INPUTS 2 (TAPE) : RCAピン
基準入力レベル : 0.28V (-11dBV)
入力インピーダンス : 50kΩ
(入力インピーダンス50kΩ以上)

出力

LINE OUTPUTS 2 (TAPE/AUTO) : RCAピン
基準出力レベル : 0.46V (-6.7dBV)
出力インピーダンス : 1kΩ

PHONOアンプ部

対応カートリッジ (MMタイプ)

入力感度 : 5.6mV
入力インピーダンス : 50kΩ
S/N比 : 60dB

ヘッドホン出力

10mW + 10mW (32Ω負荷)

ヘッドホン端子

6.3mmステレオ標準ジャック

一般

電源

AC100V、50-60Hz

消費電力

34W

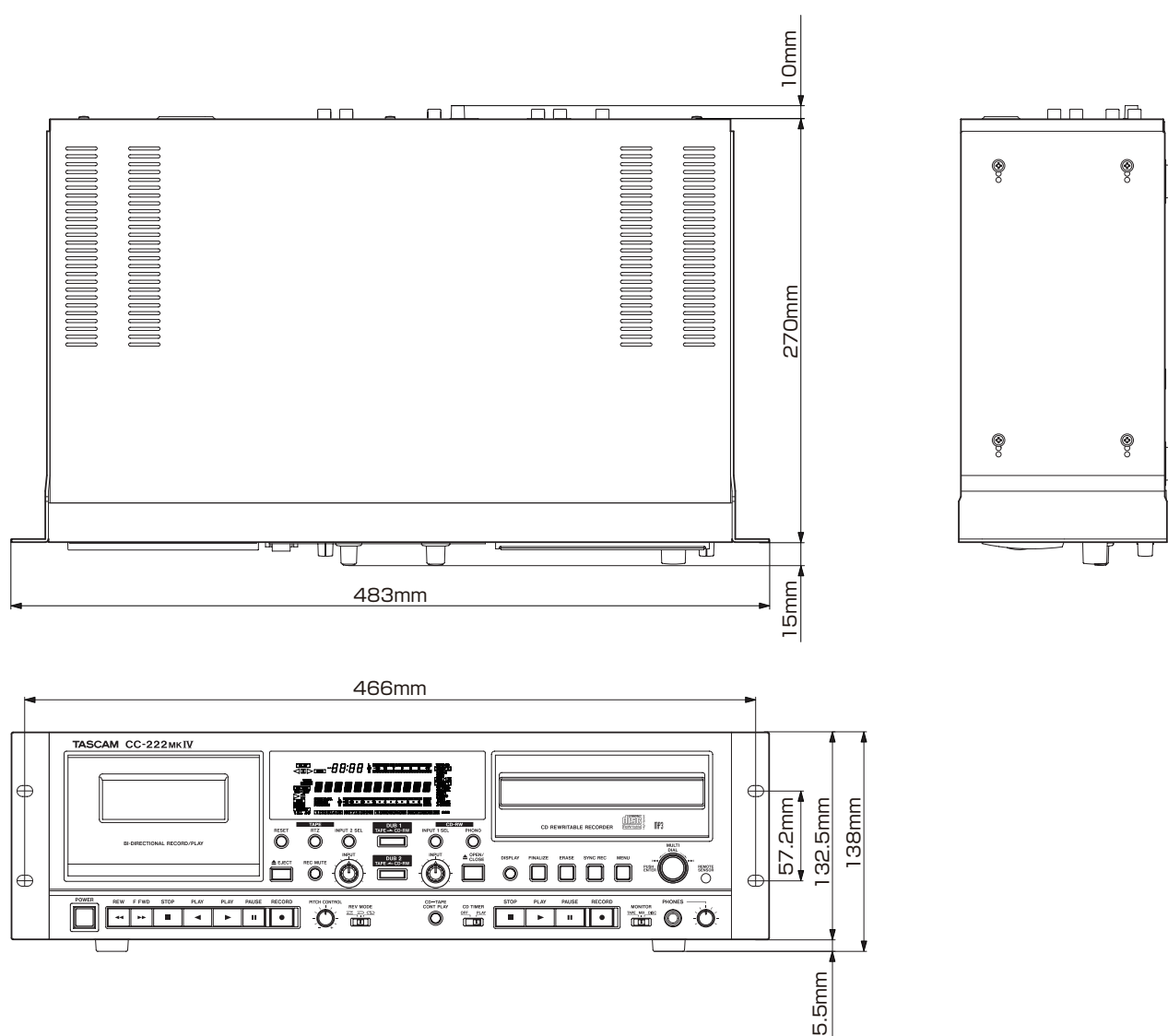
外形寸法

483×138×295mm（幅×高さ×奥行き）

質量

7.2kg

寸法図



- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

無料修理規定（持ち込み修理）

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。
3. ご転居、ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には、保証期間内でも有料修理となります。
 - (1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - (2) お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
 - (3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - (4) 接続している他の機器に起因する故障および損傷
 - (5) 業務上の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
 - (6) メンテナンス
 - (7) 本書の提示がない場合
 - (8) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名（印）の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
6. 本書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※ この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く
10:00～12:00 / 13:00～17:00です。

タスカム カスタマーサポート



0570-000-809

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47
電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30
～17:00です。

ティアック修理センター



0570-000-501

〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858
電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

- ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号にお掛けください。
- 新電電各社をご利用の場合は、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号にお掛けください。
- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Printed in China

保証書

品名 および 形名	CC-222MKIV		
機番			
保証期間	本体		
お買い上げ日	年	月	日
お客様	お名前		
	ご住所		

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から1年間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

販売店		
	電話	()

見本

